

創価大学
国際仏教学高等研究所
年 報

平成27年度
(第19号)

Annual Report
of
The International Research Institute for Advanced Buddhology
at Soka University

for the Academic Year 2015

Volume XIX

創価大学・国際仏教学高等研究所
東京・2016・八王子

The International Research Institute for Advanced Buddhology
Soka University
Tokyo・2016

『スマーガダー・アヴァダーナ』ギルギット写本： 写本A

工藤 順之

ギルギットで発見され、現在はニューデリーのインド国立公文書館に保存されている「ギルギット仏教写本」(*Gilgit Buddhist Manuscripts* = GBM)の「デリー・コレクション」には、これまでのところ、幾つかの写本整理番号にまたがって『スマーガダー・アヴァダーナ』(*Sumāgadhā-avadāna*)の写本断片が存在していることが知られていて、筆者は以前、このアヴァダーナのサンスクリット写本に三種類の写本があることをあらためて確認した¹。とは言うものの、写本が三種類であることは、これらの写本の同定を行ったゲッティンゲン大学の Chandrabhāl Tripāṭhī 博士²によって既に明らかにされていたものである(後述するが、写本を裏打ちした台紙の余白部分に博士のものと思われる手書きメモが残っている)。しかし、その博士の同定に基づいて行われた、この写本に関する数少ない研究の1つである Uwe Groth 氏の研究(1981, 未出版)では、どういう理由からか写本をA, Bの二種類としてテキストが呈示され³、他方、同氏の研究のうち、唯一公刊されている Groth 1989 では、写本Bについては Tripāṭhī 博士が二つの異なる写本からなると考えている、と記している⁴。つまり「写本A」と「二つの異なる写本からなる写本B」がある中で、合わせて3種類あることが知られていたことになる。

残念ながら Groth 氏の研究は共に極めてアクセスのし難いものであったため、このアヴァダーナに関する研究はほとんど知られることがなかった。本稿筆者が知る限りでは、Markus Görtz 氏の研究が Groth 氏の研究を唯一用いているものの(Görtz 1993)⁵、これもまた未出版であり、その研究の中心はネパール本テキストとその詩形改稿本である Kṣemendra, *Bodhisattvāvadānakalpalatā* § 93 のサンスクリットテキストとそれらのチベット訳にあったため、同論文ではギルギット写本についての記述がほとんどないと言って良い。そのため、Tripāṭhī 博士によって同定され、三種類の写

¹ 工藤 2014b 参照。

² Oskar von Hinüber 1981: No.7, No. 10c, No. 51 の項目下にそれぞれ (C.T.) の略号を以て同定者が記録されている、即ち Ch. Tripāṭhī 博士である。

³ Groth 1981: 1–4 [“Hs A” (= Handschrift A)], 6–8 [“HsB”]. 転写テキストはそれぞれ、pp. 26–37, pp. 44–52 にあり、復元テキストが pp. 53–68 にある (pp. 38–43 には “Hs B” の白黒写真が転載されている)。この論文については後掲脚注14参照のこと。

⁴ Groth 1989: 85, ll. 35–36: По его мнению, «B» состоит из двух различных рукописей (According to him, “B” is composed of two different hand-written manuscripts) [English tr. by N.K.] ロシア語論文の和訳については川崎建三氏のお手を煩わせた。ここに記して感謝する。

⁵ Görtz 1993. Marburg 大学に提出された修士論文。この論文の複写を入手するにあたって、ゲッティンゲン大学アカデミーの Klaus Wille 博士にお世話になった。ここに記して感謝する。

本が存在することが分かっていたにも拘わらず、その内容が詳しく知られることが今日までなく、校訂テキストも未だに出版されていないのである。

本稿では「デリー・コレクション」に含まれる、これまで知られていた本アヴァダーナの三種類の写本に加え、最近筆者が同定した写本整理番号 59 に含まれる 4 枚のほぼ完全なフォリオ（これは写本 C に分類される）⁶、そしてデリーのものと同じくギルギット・ナウプールから発見され、現在は「スリナガル・コレクション」と呼ばれる写本群の中に含まれる、新たに発見されたこのアヴァダーナの断片（これも写本 C に分類される）⁷について紹介し、これら三種類の写本に関する概略と今後の校訂テキスト作成に向けての資料を提供したい。

1. 『スマーガダー・アヴァダーナ』の研究

このアヴァダーナの研究は常磐井堯猷（鶴松）博士によるものが最初である⁸。その学位論文は博士がドイツ・シュトラスブルク大学で Ernst Leumann 博士の下で研究を行い、纏められたもので、その中ではパリのサンスクリット写本についての概略を述べ、次いで『スマーガダー・アヴァダーナ』の過去因縁譚とその中に含まれる「クリキン王の夢占い」に関しての各種所伝を比較し、最後に T 130 『佛説給孤独長者女得度因縁經』の英訳 (pp. 17–40), T 129 『佛説三摩竭經』 (pp. 40–52), T 128 『須摩提女經』の英訳 (pp. 52–63) を載せている⁹。

その後、岩本裕博士によって、常磐井博士の研究を引き継ぐ形での総合的な研究がなされる。1959年には6本のネパール写本を用いて作成されたサンスクリットテキストが出版され（Kṣemendra, *Bodhisattvāvadānakalpalatā* § 93 のテキストを含む）¹⁰、その後ラサ版に基づくチベット訳テキストを発表（1964年）、そして独文で梵・蔵・漢訳の諸テキストをまとめた総合的研究によって（1968年）、ほぼこの文献についてのテキスト形成史、伝承史を網羅し終えた（岩本博士はその後、独文の研究書を日本語で出版し、同時に増補改訂を行った、即ち、1968b 『スマーガダー＝アヴァダーナ研究』；新版1979年。以下、岩本『研究』と呼ぶ）¹¹。

⁶ Kudo 2014: 518.

⁷ 工藤 2014b: (200)–(201).

⁸ 詳しくは岩本『研究』pp. 1–3 参照。

⁹ 常磐井博士はその後パリ写本を用いて原典を出版したとのことであるが、本稿筆者は未見である、G. Tokiwai 1918.

常磐井博士が師事した Ernst Leumann 博士の蔵書は現在ハンブルグ大学 Institute of the Culture and History of India and Tibet に所蔵されており、そのカタログも公刊されている：Plutat 1998。その中の Item 398 (Plutat 1998: 63) には “Zu der mit Dr. Tokiwai geplanten Ausgabe der Sumāgadhāvadāna” として 27 冊のノート（475頁と51枚のリーフ）が残されている。9冊は Leumann 博士のノートで “Yaśomitra's Abstract” と “Parallel Passages for the Sumāgadhāvadāna and Glossary” であり、残りは常磐井博士の手になるものである。その内訳は以下の通り：1冊 = “CūḷaSubhaddā-Geschichte zum Sumāgadhāvadāna”; 5冊 = “Glossary”; 1冊 = チベット訳テキストからの仏語訳; 4冊 = 「舍衛国王夢見十事經」[T 146]（「仏説舍衛国王十夢經」[T 147]）; 5冊 = 「佛説給孤独長者女得度因縁經」[T 130] の英訳; 1冊 = 「阿難七夢經」[T 497, vol. 13, 758~] の英訳; 1冊 = 「増壹阿含經」（卷二十二）の英訳; 1冊 = “An extract from the Sūtra on Yūye” の英訳。また Item 191 (Plutat 1998: 39) には “Indische Handschriftenphotographien zu Viśeṣāśyākabhāṣya und andere” とある中に “Nämlich zum Sumāgadhāvadāna” がある。これらは常磐井博士による本アヴァダーナ研究の原資料と言って良い。

¹⁰ 岩本『研究』にはその後確認されたものとして、合計 8 本の写本についての情報がある (pp. 5–9)。九州大学、岡野潔博士がインターネット上に公表している『インド仏教文学研究史 9：中世の Avadāna 文献の研究史と写本』B. Avadānamālā 類 7. Vratāvadānamālā, d. Sumāgadhāvadāna にはこのアヴァダーナの研究史、及び岡野博士が調べ上げた他の写本に関する情報が掲載されている (<http://homepage3.nifty.com/indology/vratavadanamala.html>, [25.2.2016 last access])。

博士によるテキスト形成史を簡単にまとめておこう。その研究に用いられた資料は以下の通りである：

- ・サンスクリット本（ネパール写本。古いもの[B写本]で13世紀、他は19-20世紀のもの）
- ・チベット訳（ラサ版、翻訳は9世紀頃）
- ・漢訳 Ch1: 『佛説三摩竭經』, 竺律炎譯 (230), T 129, Vol. 2, 843a28-845b29.
Ch2: 『須摩提女經』, 支謙譯 (240), T 128, vol. 2, 835c19-837c6.
Ch3: 『增壹阿含經』, 僧伽提婆譯(397) (曇摩難提?(384-5)), T 125(30.3),
Vol. 2, 660a-665b10.
Ch4: 『佛説給孤長者女得度因緣經』, 施護譯 (980~), T 130, vol. 2, 845c-854a.
Ch5: 『分和壇王經』, 沮渠京聲譯 (455), (經律異相 T 2121, vol. 53, 155c-156a [240])
- ・ Kṣemendra, *Bodhisattvāvadānakalpalatā* § 93: Sumāghadhāvadāna (11 c.)

ギルギット写本に関する言及がないとは言え、博士の纏めた原典成立史には今のところ大きく修正すべき点はない。テキスト相互の関係についての博士の考察を箇条書きで示す（岩本『研究』 pp. 187-8）。議論を先取りするが、ギルギット本の特徴も括弧内に付け加えておく：

- (1) ネパール本と Ch4 は同じ系列。
- (2) ネパール本の写本Bにはブツダの姿を黄金であると比喻する箇所があるが、これはチベット訳のみにあるが（→ギルギット本にもある）、他の点では Ch4 と共通で、この写本はチベット訳と Ch4 の中間に属する。
- (3) チベット訳は BAK に近く、これらはカシミール伝本である。（→ギルギット本もそうなる）
- (4) クリキン王の十夢の挿話は、チベット訳、ネパール本、BAK、Ch4 にある。（→ギルギット本にもある）
- (5) Ch3 はいくつかの異伝が含まれていて、Ch4 からは遠く、またチベット訳からも遠い。
- (6) Ch2 は Ch3 とほぼ同系。両者には不完全ながら因縁譚としての過去物語があり、異教徒教化物語だけの Ch1, 5 に比べればネパール本、チベット訳に近い。法蔵部の所伝。
- (7) Ch1, Ch5 はピンドーラが登場する古い伝承に基づく。原本は説一切有部所屬。

この考察では各テキストの伝承過程でのグループ化がされているが、ギルギット本はチベット訳、BAK § 93 と同じカシミール伝本に属するものである。

そして、テキストそのものがどのように形成され、発展してきたのかについては次の様な段階を想定されている（岩本『研究』 pp. 188-195）。それを要約する：

元々のスマーガダーの異教徒教化物語（A段階）から、彼女の過去因縁譚が加えられた物語を成立のB段階とし、さらにクリキン王の物語がその因縁譚として差し替えられた時期をC段階とする。そして次のD段階までに黄金によるブツダの比喻が書き加えられ、D段階では『ジョーティシュカ・アヴァダーナ』からの引用を包含したとする。チベット訳と BAK はC段階から分かれた伝承に基づくものとする。ネパール写本のうち、もっとも古いB写本（コルカタ、アジア協会本、十三世紀）はこのD段階からのテキストであるとする。また、ネパール写本を基にしたサンスクリットテキストはD段階から派生したものである。E段階において黄金の比喻が削除され、貧女の誓願・銅銭二銭の寄進のエピソードが挿入される。

A: スマーガダーの異教徒教化物語

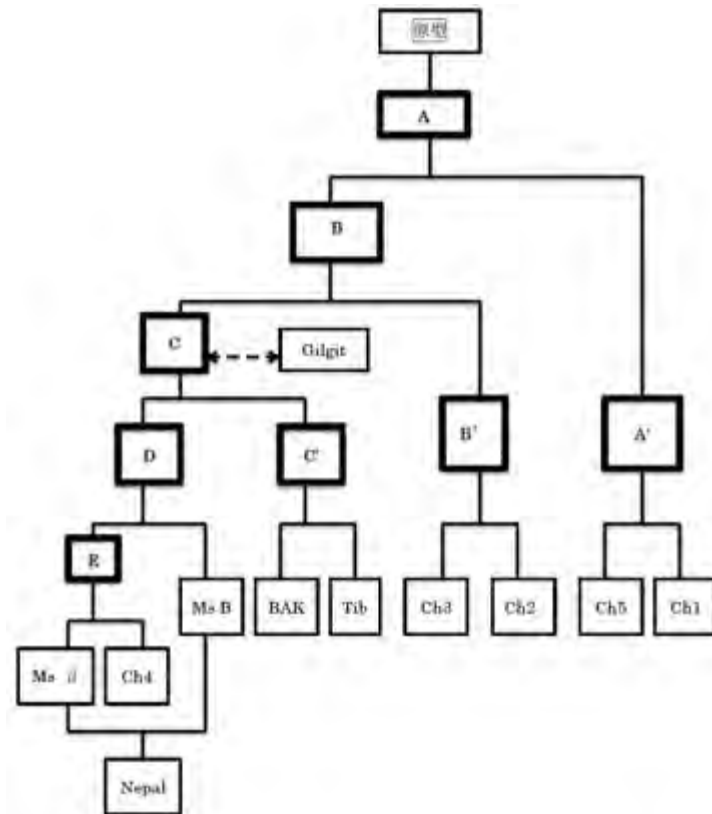
B: スマーガダーの異教徒教化物語 + 彼女の過去因縁譚

C: スマーガダーの異教徒教化物語 + 彼女の過去因縁譚（クリキン王の物語に差し替え）
＜ブツダの黄金の比喻の挿入＞

¹¹ 岩本 1967 では「第一章 スマーガダー＝アヴァダーナ」としてこのアヴァダーナの原典史・成立史等を既に扱っている。岩本『研究』 1968b; ²1979はその増補に当たる。

- D: スマーガダーの異教徒教化物語 + 彼女の過去因縁譚（クリキン王の物語）+ 『ジョーティシユカ・アヴァダーナ』からの引用
 E: 黄金の比喩の削除、貧女の誓願・銅銭二銭の寄進のエピソード挿入

このようなテキスト間の関係をまとめると次の様になるが、ここにもギルギット本を組み込んで表してみよう（岩本『研究』 p.189 を基に略号で表記した）：



岩本博士はチベット訳本が中でも最も古い段階のテキストを保持していると考え、その伝承をカシミール伝本と呼ぶ。ギルギット本は大筋においてチベット訳本と一致する。そのカシミール伝本のチベット訳本が BAK と共通に持つ記述（即ちブツダの黄金の比喩、クリキン王の夢占い）¹²をギルギット本も同じように共有しており、これは明らかにC段階、もしくはそこから派生したC'段階の伝承を受けている。その中でチベット訳本、BAK がそれぞれ九世紀、十一世紀のものであることからすると、ギルギット本は写本の年代から見て（Gilgit/Bamiyan Type I）、遅くとも六～七世紀には書かれていたことになるので、他のカシミール伝本の基になったC段階のテキストである可能性がきわめて高い。D段階で混入した他のアヴァダーナからの要素はギルギット本には見当たらないので、Ch4 (980年以降)、ネパール本（早くても十三世紀以降）写本Bの基になったD段階のテキストより前の段階のテキストである可能性が高い。即ち、ギルギット本はチベット訳本、BAK、ネパール本、Ch4 の、更に基になったC段階或いはそこから近い段階でのテキストであることが確実である¹³。

¹² クリキン王の十夢（過去物語 Tib.§§ 80-101, 夢 83-99: MS A. 10c.1420–24; MS C. 59a.3245–48）；ブツダの黄金の比喩（Tib. § 16: MS A. 7b.1285, folio 26r2）。

¹³ ギルギット本と他のヴァージョンとの相違、チベット訳との一致と差異、については工藤

テキストの展開史とテキストが成立した部派との関係から岩本博士は再度検討を加えているが、ギルギット本に関連する要点を取り上げておこう(同 pp. 200–202)：

- ④西暦二世紀にはスマーガダーがブッダを招いたことと異教徒教化の物語がガンダーラ地方に広がっていたこと；
- ⑤スマーガダー伝説は説一切有部の伝承の中に成立したこと。また、「クリキン王の十夢」もほぼ同じところに説一切有部の伝承の中に成立したこと；
- ⑥西暦二世紀の末ごろに、スマーガダー伝説に「クリキン王の十夢」の物語が因縁譚として結合され、説話としての「スマーガダー・アヴァダーナ」が編述された；
- ⑦この伝本の一つがカシミール地方に伝承され、後に九世紀におけるチベット訳および十一世紀におけるクシェーメンドラ詩形改稿本の原本となった；
- ⑧他資料（ディヴィヤ・アヴァダーナ）に含まれる伝承や関連資料が付加され、ネパール写本Bの祖型が成立；
- ⑨Ch4 はサンスクリット本（ネパール本）に極めて近い伝本の一つ；
- ⑩西暦三世紀の前半にはBを除く他のネパール写本の祖型であるβ写本が経量部の手によって固定される；
- ⑪写本βに由来するネパール写本Cは経量部所属；
- ⑫写本Tは根本説一切有部の伝承である。

したがって、この岩本博士の研究成果に当てはめるならば、ギルギット本とはカシミール地方に伝わった説一切有部のアヴァダーナであり、拡大されたネパール写本に見られる現行サンスクリットテキストより遙かに古い段階のテキストを保持していることになる。

残念ながら岩本博士はギルギット本を全く扱っていない。ギルギット写本を用いた研究は次に紹介する Groth 1981 になって初めて行われた。

2. ギルギット写本研究

2. 1 Groth 1981, 1989

ギルギット写本のこのアヴァダーナについて、これまでのところ唯一の研究である Groth 1981 では写本を三種類としながらもAとBとの二本として研究を進めている¹⁴。その後、ギルギット写本についての短い解説と「クリキン王の夢占い」のサンスクリットテキストをロシア語の論文で発表したものが Groth 1989 である¹⁵。簡単

2014b（特に(198)–(200)）に扱った。

¹⁴ 彼の修士論文とされる Groth 1981 は von Hinüber 博士によって初めて言及された (v. Hinüber 1981: *9. ここでは Tripāṭhi 博士の下で研究がされているというものであったが、その後 v. Hinüber 2014: 97–98 に修士論文としてのタイトルが記載された)。von Hinüber 博士ご自身も彼の修士論文は未見であるとのことであったが (personal communication through e-mail, 2013/4)、その後、日本学術振興会特別研究員の山崎一穂博士を通して、九州大学の岡野潔博士が複写したマールブルク大学インド哲学研究室図書所蔵の同論文（写し）を入手することが出来た。更に、K. Wille 博士からも複写を送って頂いた。ここに三人の先生方に深く感謝申し上げたい。

¹⁵ 公刊されている唯一の論文はロシア語で書かれているが、参考のため、その内容を簡単に紹介する（前掲注4参照）。

論文は大きく二つに分かれ、前半ではギルギット写本の発見の経緯について触れ、本アヴァダーナの出版テキストとして岩本 1964 (1968) と BAK No. 93 を挙げた上で、このアヴァダーナのギルギット写本二種（A, B）についての情報をまとめている。後半でアヴァダーナの主人公スマーガダーの過去物語で登場するクリキン王の十夢部分のテキストを提示している。

二種類の写本については、A写本が「樺皮7枚、後期グプタ文字」であること、写本Bは「Tripāṭhi 博士から提供された写真で、樺皮、プロト・シャーラダー文字」で書かれていること、そして写本BがAよりも新しい、Aから作られた「コピー」であると述べている。また Tripāṭhi 博士からの情報として、この写本Bには二つの写本が含まれているということであるが (Groth 1989: 85, 35–37)、それら

に彼の研究を紹介しよう。但し、既に述べたように、写本は A, B の二本ではなく、A, B, C の三本に区別されなければならないので、その研究の一部は訂正が必要である。

彼が用いた写本は GBM 整理番号の 7, 10, 51, 52, 60 に含まれる断片である。彼の区分に合わせて示すと以下の通りである¹⁶：

Manuscript A:

No. 7b: FE 1285/1284, 1 folio; folio no. (26), id. by Ch. B. Tripāthī.

No. 10c: FE 1414–1425, 6 folios = folio nos. 28, 30–34, id. by Ch. B. Tripāthī.

Manuscript B:

No. 51c: FE 3268R/L, 3270–3275, 3277/3278, 5 folios, id. by Ch. B. Tripāthī.

No. 52c: FE 3303/3304, 3305¹⁷, 3310L/R; 3 folios, id. by Ch. B. Tripāthī.

No. 60c: FE 3358/3359, 1 folio = folio no. 163, id. by Ch. B. Tripāthī.¹⁸

写本 B とされた断片の中には、フォリオ番号が残る第162, 163葉があり、そのため Groth 氏はこれら全ての断片が一つの写本を構成していると考えて、逆算して他の断片を第 156, 158, 159, 161 葉に当たるものと推定した¹⁹。その順序を示そう（{ } で同一面であることを示す; / で表／裏を表す）²⁰：

folio no. (156) = 52c.3305

folio no. (158) = 51c.3268R/L

folio no. (159) = {51c.3277+ 52c.3304}/{51c.3278+52c.3303}

folio no. (161) = 51c.3272/3273

folio no. 162 = {52c.3310L+51c.3274}/{52c.3310R+51c.3275}

folio no. 163 = {60c.3358+51c.3271}/{60c.3359+51c.3270}

写本 A は「後期丸形グプタ文字」(“runder, ornamentaler Gilgit-Schrifttyp, Spät-Gupta, Federstrich”)²¹、或いは Gilgit/Bamiyan type I で書かれたもの、写本 B は Proto-Śāradā、或いは Gilgit/Bamiyan type II で書かれたものである²²。

彼によれば、文字の年代から見れば A の方が古いものとしてみなすことができ、更に以下のような 3 点が指摘できるという：

が実際には第 3 の写本、即ち写本 C として別個のものとすべきであるとまでは述べていない。テキストとしては岩本 1964 に提示されたチベット訳と類似していることを指摘しているが、ネパール本や漢訳についての言及はない。前半部分最後ではこのアヴァダーナと他の仏教文献との関係が指摘され、5 世紀末に書かれたこのアヴァダーナが内容的には大乘への移行期の思想を反映していると述べる。後半のテキストはロシア語訳が最初に置かれ、写本 A の “31a5” (= 31v5; FE1418) から “34a2” (= 31v2; FE 1425) まで、即ちアヴァダーナの終わりまでのサンスクリット文が出版されている（異読、註などは無い）。

¹⁶ Groth 1981: 1–8 参照。但し、写本の同定者の情報などを加えてある。

¹⁷ FE 3305 の裏面は FE1, FE2 に出版されていない。

¹⁸ 同定者に関しては von Hinüber 1981: *9* 参照。von Hinüber 2014: 108 には No. 51c, 52c, 60c の断片を写本 B を構成するものとしてその順序を示しているが、写本 B が実際には B と C の二種類に分けられなければならないことがはっきりしているため、その順序はもはや利用できない。

¹⁹ Groth 1981: 6, note 1. “die engeklammerten Blattzahlen wurden von Bl. 162 rücklaufend errechnet.”

²⁰ 言うまでも無いが、彼の言う「写本 B」は、正しくは写本 B と C であり、これらが混ざっているために、この逆算して振られたフォリオ番号のうち 156, 158, 159 は誤りである。第156, 158, 159葉とされたものは写本 B の一部であり、尚且つフォリオ番号は不明、第161葉とされる番号の断片は写本 C に属する。また写本 C の第160葉は「スリナガル・コレクション」にある（後述）。

²¹ Groth 1981: 1.

²² Ibid., p. 6.

(1) 写本BではAに見られるような混乱した箇所が訂正されている。即ち、Groth § 35²³ において Pūrṇa Maitrāyaṇīputra がやって来た時に、彼の事について問答がある箇所で、Aではそれが不自然に中断されて、次の弟子の登場へとテキストが続いているが、Bでは他の弟子の場合と同様に問答がされている。このことはテキストをBの筆写者が訂正したものである²⁴。

(2) 筆写上のミスが写本Aの方に少ないこと。

(3) 使われている文字が写本Aでは三本鉤の形を持つ ya であるのに対して、写本Bの ya はより新しい形（中に隙間を作る）であること。

以上のことから、写本Aの方が古く、写本BはAの「コピー」(Kopie)²⁵（Aの不備を知っていて訂正をしているので）である、と結論付ける。（繰り返すが、Grothでは写本BとCの区別がされていない。(1)でBと呼ぶものは、実際には写本Cであり、(3)で言う写本BとはBとCの両者である。)

年代の異なる写本が同じ場所から発見されたことから、一方が他方を写したものである可能性は高い。したがって、彼のいう「BがAのコピー」であるとの見解は確からしく思える²⁶。

尚、彼の研究ではチベット訳との対応が全く考慮されていない²⁷。

2. 2 Ch. Tripāṭhī [手書きメモ]

本アヴァダーナの写本を3種類とする記録は、現在インド公文書館に保存されている状態と言えば、写本を裏打ちした台紙余白にメモ書きの形で残されている。このメモがいつの時点で、誰によって残されたのかは何の記録も残っていないので断定的に言えることがないのであるが、写本のマイクロフィルムが作成された1952-3年には書かれていなかったものである²⁸。

状況的には、このメモは公文書館を直接訪れて写本を調査した Ch. Tripāṭhī 博士による同定であろうと思われる。博士は 1979, 1982, 1987 年に New Delhi, Srinagar,

²³ この分節は彼が独自に振ったものである。本稿ではギルギット本がチベット訳の元になった系統のテキストであることから、分節はチベット訳の分節を採用しているので Groth 氏のそれとは異なる。彼の分節に合わせると § 46 = Groth § 35 である。

²⁴ 実際のテキストで見てみよう。繰り返すが、Groth 氏の言う「写本B」は正しくは「写本C」である。写本Cに下線を付した部分が修正されたとされるところである。

Ms A: § 46. tataḥ ○ sa gr̥hapati pr̥cchati • sumāgadhi ayaṃ te śāstā • yo (')yaṃ garuḍarathenāgacchati • [Groth §35] sā kathaya(yati na) : § 47 [= Groth §36]: atrāntare(1415;28v5)nāyuṣmān aśvajit praśānteryāpathenābhyāgacchati •

Ms C: § 46. /// ++ [g].[hapati] p. c. [ti] s. māgadhe ayaṃ te sa śāstā yo (')yaṃ garuḍarathenāgacchati • [Groth § 35] sā kathaya(yati na) /// (ayaṃ Pūrṇo nāma) (3273;161v2) /// (bhi)[ksu](r) bhagavatā dharma[ka]th[i]kānām agro [n]ir[i]lsta sa esa garuḍarathenābhyāgata(h) • || § 47 [= Groth § 36] atrāntare āyu[ṣ](mā) /// (n aśvajit praśānte) (3273;161v3) /// (ryā)bhyāgaccha○ti •

²⁵ Ibid., p. 15.

²⁶ ギルギット写本が発見された場所についての結論はまだ確定していないが、例えば、Schopen が言うように、そこが写本の書写室で、発見された写本とは、既に支払いが済んで引き渡すだけになっているもの、何らかの理由で引き渡されず或いは返却されたもの（発注者が死亡したため）などの理由によって残されたものである、とするならば、一方が書写元であった可能性もある。Schopen 2009 参照のこと。

²⁷ チベット訳を中心にこのアヴァダーナの研究を行ったのが、Görtz 1993 である。彼はこのアヴァダーナのネパール写本テキストと Kṣemendra, *Bodhisattvāvadānakalpalatā* § 93 のサンスクリットテキストとそのチベット訳を校訂し、独訳した。ギルギット写本に触れているのは、論文第4章「伝承史」第6節に各ヴァージョンの対応表がまとめられている中で Groth 1981 を引いて、他のテキストとの違いを指摘している箇所にとどまり、テキストとして独立して論じられていない。(pp. 198–201)。

²⁸ マイクロフィルム化については Clarke 2014: 2 参照。

Ujjain を訪れ、所謂「ギルギット写本」を調査している (Tripāṭhī 1995: 11)。その時のどこかの時点で書きこまれたのではないかと推測できる。この手書きのメモ部分を、Tripāṭhī 博士が撮影した「スリナガル・コレクション」を引き継いで研究されている Wille 博士に見てもらったところ、おそらく Tripāṭhī 博士の筆跡であろうとの返事を頂いた (2014.8.23 付け E-mail)。その際に送って頂いた、「スリナガル・コレクション」の断片に書き込まれた博士の手書き文字の写真 (“Sumāgadhā-avadāna” というメモ書きが残っている) と比べると確かに同一と言ってよい。

写本は保存のための処置がとられ、表・裏面に剥ぎ、台紙の表裏に貼り付け直されている。メモはその台紙の余白部分に書かれている。全ての断片に書かれているわけではないが、残されているメモは以下の通りである：

No. 7b: FE 1285	左余白	“Sumāgadhā-/Avadāna. A / Fol. (26)”
No. 51c: FE 3268L	右余白	“Sumāgadhā-/Avadāna, B”
No. 51c: FE 3278	右余白	“Sumāgadhā-/Avadāna, B”
No. 51c: FE 3274	右余白	“Sumāgadhā-/Avadāna, C”
No. 51c: FE 3270	右余白	“51 Sumāgadhā-/Avadāna, C”
No. 51c: FE 3272	右余白	“51 Sumāgadhā-/Avadāna, C”
No. 52c: FE 3310L	右余白	“52 Sumāgadhā-/Avadāna, C”
No. 52c: FE 3303	左余白	“Sumāgadhā-/Avadāna, B”
No. 52c: FE 3305	左余白	“Sumāgadhā-/Avadāna, B”
No. 60c: FE 3358	右余白	“60 Sumāgadhā-/Avadāna, C / Fol. 163”

僅か数行の断片を含め、No. 59 の 4 フォリオを除く全ての断片が正しく同定されている。このような情報が何故その後の研究に反映されなかったのかはわからない。

2. 3 GBM 写真版 [FE1, 1974; FE2, 1995]

こうした写本のテキスト同定に関しては GBM (FE1, FE2) の Raghu Vira / Lokesh Chandra 博士による Preface にはほとんど盛り込まれていない。順に見ていこう。

No. 7, FE 1285/1284 については、part 1 の “Contents of parts 1–10” の中に次のように記されている：

GBM (FE1, part 1, p. 1; FE2, vol. I, p. 26)
 6: 1166–1284 Mahāsannipāta Ratnaketusūtra
 7: 1285–1288 un-identified
 [FE2: 7. Ratnaketu-parivarta (fac. 1166–1288)]

FE 1285/1284 という一枚が、一面は未同定 (1285, 表面)、もう一面が別テキストに同定されている (1284, 裏面)。FE2 では未同定フォリオについて記述していない。

No. 10 については以下のように同定がなされている。これはテキスト内に現れる Sumāgadhā という名によってそう名付けられたに過ぎない。テキストとして何か他にパラレルを指摘しているわけではない：

GBM (FE1, part 7, p. 3= FE2, vol. I, p. 28)
 10(3) [Sumāgadhāvadāna?], folios 28, 30–34. The vocative Sumāgadhī occurs repeatedly in the text. ...

Nos. 51, 52 であるが、次のようにある：

GBM (FE1, part 10, p. 9 = FE2, vol. I, p. 53): “51, 52 FRAGMENTS OF MANUSCRIPTS. They contain fragments of various sizes belonging to different manuscripts. Is 3306 Bhaiṣajyaguru-sūtra? Are 3318, 3323 Saṅghāta-sūtra?”

Nos. 51 (FE 3261–3301), 52 (FE 3302–3325) に含まれる写本はほとんどが断片で、写真版ではテキスト同定がなされていない。数葉について推測されているが正しくはなく、例えば FE 3306 は *Bhaiṣajyaguru-sūtra* ではなく *Saddharmapuṇḍarīka-sūtra* であり、そして FE 3318 は *Prajñāpāramitā* の断片であり、そして FE 3323 が *Samghāta-sūtra* であることだけが正しい²⁹。

No. 60 についての Preface の記述は以下の通り：

GBM (FE1, part 10, p. 10 = FE2, vol. I, p. 53): “60. FRAGMENTS OF MANUSCRIPTS. Manuscript no. 60 contains three different texts as it appears from a physical examination of the original folios.”

具体的なテキストに関する情報はないものの、複数のテキストからなることだけはわかっていた。これらは現在、*Mahāpratisarāvidyārājñī* (2 folios), *Pradakṣiṇagāthā* (one folio), そして *Sumāgadhā-avadāna* (one folio) であると判明している³⁰。

次いで最近同定できた No. 59 であるが、Preface には次のようにある：

GBM (FE1, part 10, p. 9 = FE2, vol. I, p. 52): “59. PRESENAJID-GĀTHĀ. It has six folios with original numbers 164, 165, 166, 167, 143, 24(?). On folio 24b(?) the colophon reads: // ◎ *prasenajid gāthās samāptā* // ◎ Also compare ms. no. 21 which is Prasenajid-gautama-gāthā.”

フォリオ番号が分かっているもののうち、第164–167葉は番号が正しく読まれていて、これらが新しく同定できた『スマーガダー・アヴァダーナ』の写本である。この整理番号に含まれるテキストとしてタイトルが分かっていたのは一つだけであったが、現在では全てが同定されている³¹。143 とあるのは 243 の誤りで、この第243葉に含まれるテキストは *Nandika-sūtra* (の終わり) と *Pradakṣiṇa-gāthā* (の始まり) が含まれており、*Prasenajid-gāthā* は第24葉とされる一葉のみである (この 24 という葉番号も 25 の誤りである)。

尚、出版された写真版には掲載されていないメモであるが、現在インド国立公文書館に保存されている No. 10 の写本はテキストごとに別々の紙で包まれていて、その包み紙に写本に関するメモ書きが残されている (No. 10 の写本全体は三つの紙包みをまとめて上下二枚の板で挟み、紐で縛ってある)：

10(1) Vajracchedikā leaves 5, 7–12 / Published by N. P. Chakravarti, in *Minor Buddhist Texts*, pt. 1 / (Rome 1956) pp. 175 ff.

10(2) Bhaiṣajyaguru-sūtra / leaves 13, onwards (sic!) 15–23 / Ms. ‘C’ of Dutt, *Gilgit Mss.*, vol. I, p. 47

10(3) leaves 28, 30–34, Avadāna of Sumāgadhā (?) (6 leaves);

10(4) leaves 35, 37, 38 Sucandrāvadāna (cf. C. Bendall, *Catalogue of the Buddh. Skt. Mss.*, Add. 1400, p. 84) 3 leaves.

²⁹. von Hinüber 2014: 107–109 を参照のこと。

³⁰. von Hinüber 2014: 111 を参照のこと。

³¹. von Hinüber 2014: 110 を参照のこと。

これらの手書き文字はおそらく Lokesh Chandra 博士のものであると思われるが、“10(1)”とあるのは No. 10a: *Vajracchedikā* 写本 (FE 1380–1393) であり、“10(2)”とあるのは No. 10b: *Bhaiṣajyaguru-sūtra* 写本 (FE1394–1413) であり、“10(3)”とあるのが No. 10c, d の *Sumāgadhā-avadāna* と *Sucandra-avadāna* 写本 (FE 1414–1431) である。現在の所蔵状況で言えば、他の整理番号の写本で、複数のテキストが混在している場合に、このように別々の紙にくるまれて区別されているものはない。

以上のように、写真版の出版段階では知られていなかったが、出版後の様々な調査・研究によって『スマーガダー・アヴァダーナ』には三種類のギルギット写本があることが知られていたことになる。それにも拘わらず、為された研究へのアクセスが困難であったこと、写真版そのものの画質が良くなかったことなど、いくつかの問題によって、このアヴァダーナの資料の全体が明らかにはならなかったばかりでなく、研究も進められていなかったのである。

3. 三種類の写本の確定

3. 1 新同定写本

さて、最近になってこれまで何のテキストであるか同定されていなかった GBM No. 59 の4枚の写本がこのアヴァダーナの写本であることが明らかになった³²。これは写本Cの fol. no. 164–167 にあたる。あらためてこのアヴァダーナの写本の内訳と順序を示そう。同一の葉を構成する断片は { } でまとめ、テキストの順によって並べ替えてある：

写本A：6 lines, Gilgit/Bamiyan Type I.

7b.1285/1284 [= fol. no. 26]; 10c.1414–1425 [= fol. nos. 28, 30–34]

写本B：4–5 lines, Gilgit/Bamiyan Type II.

52c.–/3305 [fol no. ?]; 51c.3268R/L [fol no. ?]; {51c.3277+52c.3304}/{51c.3278+52c.3303} [fol no. ?]

写本C：6 lines, Gilgit/Bamiyan Type II.

51c.3272/3273 [= fol. no. 161]; {52c.3310L+51c.3274}/{52c.3310R+51c.3275} [= fol. no. 162]; {60c.3358+51c.3271}/{60c.3359+51c.3270} [= fol. no. 163]; 59a.3241–3248 [= fol. nos. 164–167]

こうして3種類の写本が確認されたわけであるが、断片は同じ写本に属するにもかかわらず異なった整理番号に分類されているものもあり、しかも同じ一つの葉であるにもかかわらず異なった整理番号に分けられているものもあり、写本の出土状況やその後の整理の中で混乱があったことをうかがわせる。更に後述するように、最初に「ギルギット写本」として発見された時(1931年)の写本(「デリー・コレクション」と同じ写本に属する断片が別の時期(1938年)に発見される(「スリナガル・コレクション」)など、「ギルギット写本」がどのように発見され、調査され、資料が保存されてきたのか、という問題をもう一度最初から調べ直さなければならないことは確かであろう。

写本Aはこれまで指摘されていたように、Nos. 7b, 10c にまたがって、第26, 28, 30–34 葉が残る。

³². Kudo 2014: 518.

Manuscript A [Ser. No. 7b, 10c] (Gilgit/Bamiyan Type I):

Folio no.	recto/verso	Serial no.	FE no.	corresp. to Tib.
(26)	recto	7b	1285	15-20
(26)	verso	7b	1284	20-27
28	recto	10c	1414	36-42
28	verso	10c	1415	43-49
30	recto	10c	1416	60-65
30	verso	10c	1417	65-69
31	recto	10c	1418	70-75
31	verso	10c	1419	76-80
32	recto	10c	1420	80-83(7)
32	verso	10c	1421	83(10)-87
33	recto	10c	1422	87-91
33	verso	10c	1423	92-98
34	recto	10c	1424	99-101
34	verso	10c	1425	102-103

この写本Aはテキスト § 15 から始まるが、そのフォリオは第26葉である。第34葉でテキストが終わることを考えると、この写本には複数のテキストが含まれていたことになる。事実、同一の写本Aを構成する No. 10 写本では更に第35, 37, 38葉までが続くが、ここには *Sucandra-avadāna* が筆写されている（第36葉は No. 7 写本に含まれている）³³。

写本Bは、一覧して分かるように、Nos. 51, 52 の写本からのいくつかの断片からなり、異なる整理番号に含まれる断片が一つのフォリオ内で接合する：

Manuscript B [Ser. No. 52c, 51c] (Proto-Śāradā or Gilgit/Bamiyan Type II):

Folio no.	recto/verso	Serial no.	FE no.	+ Serial. no.	FE no.	corresp. to Tib.
(1?)	recto			52c	3305	1-3
(1?)	verso			52c	no img.	3-6
?	recto	51c	3268R			7-10
?	verso	51c	3268L			11-13
?	recto	51c	3277	52c	3304	29-32
?	verso	51c	3278	52c	3303	32-36

³³. *Sucandra-avadāna*: fol. 35 [10d.1426/1427], fol. 36 [7c.1286/1287], fol. 37 [10d.1428/1429], fol. 38 [10d.1430/1431].

no. 52c.3305 はテキスト冒頭を記したフォリオだと推測されるので、もしもこの写本がこのアヴァダーナの単独写本だとすれば、この断片は第一葉ということになる。

写本Cは三つの分類番号にまたがった断片が互い違いに同じフォリオを構成している：

Manuscript C [Ser. No. 51c, 52c, 59a, 60c; #Srinagar Collection] (Proto-Śāradā or Gilgit/Bamiyan Type II):

Folio no.	recto/verso	Serial no.	FE no.	+ Serial. no.	FE no.	corresp. to Tib.
(160)	recto	#A86.2		#C153.1+2		32-34
(160)	verso	#A86.1				38-40
(161)	recto	51c	3272			41-45
(161)	verso	51c	3273			46-50
162	recto	52c	3310	51c	3274	51-55
162	verso	52c	3310	51c	3275	55-57
163	recto	60c	3358	51c	3271	57-62
163	verso	60c	3359	51c	3270	62-67
164	recto	59a	3241			67-69
164	verso	59a	3242			70-74
165	recto	59a	3243			75-78
165	verso	59a	3244			79-82
166	recto	59a	3245			82-84
166	verso	59a	3246			84-87
167	recto	59a	3247			87-90
167	verso	59a	3248			90-97
(168)	recto	#A86.3				100-102

左側一部しかない No. 51c; FE3272/73 が第161葉に当たり、Nos. 51, 52 あるいは 60, 51 に含まれる、相互に接合される断片がその後のフォリオを構成し、更に整理番号 59a の写本が続く。したがって、現在までに判明している限りでは、写本Cは第161–167葉の7葉から成ることが分かる。断片で残っているテキストなので、全ての読みが得られるわけではないが、この写本のテキストは内容が最も近いチベット訳に対応させると全体の約5分の3に相当する。尚、フォリオ番号から分かるように、この写本は複数のテキストを筆写したかなり大きな写本である。そのような大きな写本の中で、このアヴァダーナが筆写されている部分だけが残っているということは、ギルギット写本の中に3種類の写本が残されているという事実と合わせて考えるならば、このアヴァダーナテキストがこの地域において何か特別な事情の下に伝承されていた可能性があるといってよいだろう。テキストを伝承した部派、写本を残してきた人々など更に多くの問題を検討する必要があるが、それについては稿をあらためたい。

写本BとCとは、「デリー・コレクション」の断片だけ見ると、テキストとして重複していないので、Groth氏がそうしたように一体のものとしてまとめることができるかもしれない。ただ、その場合でも片面に書かれる行数が異なるので、その説明が必要になる。しかし、今では写本BとCが分けられなければならない決定的な理由が明らかになっている。それが次項で取り上げる「スリナガル・コレクション」の断片である（既に上掲の写本Cの一覧表には含めてある）。

3. 2 「スリナガル・コレクション」の断片

ここまで扱った写本はギルギット写本の「デリー・コレクション」に含まれている。一方、同じくナウプールで発掘されたギルギット写本の一部はスリナガルに保存されている。この「スリナガル・コレクション」は1938年に考古学者カウル・シャストリ (Madhusudan Kaul Shastri) によってわずか一週間だけ行われた、正式な発掘調査によって発見されたものである³⁴。写本は他の写本と同様に遺構Cからのみ発見されている。

このコレクションについては、これまで法華経と *Samghāṣūtra* のみが研究されていたが、最近 Wille 博士によって全体像を明らかにするリストが公表された³⁵。

それによると、この「スリナガル・コレクション」は、1982年に Ch. Tripāṭhī 博士によって撮影され（写真はA、B、Cのグループに分けられ、それぞれの中で番号付けがされていた）、1987年の第2回目の訪問では、Aの断片が再度撮影され、1982年の段階で記録されていなかった断片も撮影された（それらはDとして番号化された）。尚、この第2回目の撮影時にはAに含まれる30断片がもはや博物館には無いこと、それ故失われていたとのことである。

さて、これまでアヴァダーナ文献の写本は「デリー・コレクション」だけに含まれていると思われていたが、この Wille 博士のリストによれば、「スリナガル・コレクション」にもアヴァダーナ写本が含まれていて、その中に『スマーガダー・アヴァダーナ』が記載されていた：“Sumāgadhā-avadāna: A86.1, 2, 3 (CT), C153A, B (CT)”³⁶。

この資料について Wille 博士にお尋ねしたところ (2014.8.23, E-mail)、A 86.1 がどうやら写本Cの第160葉に相当するようであるとの情報を頂いた³⁷。その後、博士とやりとりする中で、「デリー・コレクション」に含まれる写本のローマ字転写テキ

³⁴ M. S. Kaul Shastri, “Report on the Gilgit Excavation in 1938,” in: *The Quarterly Journal of the Mythic Society* 30. 1939, p. 1–12 and 15 plates. (その概要は Fussman 2004: 112–13 にも引用されている。) 発掘状況をまとめると次のようになる。発掘は 1938. 8/20–26 に行われた；20日は遺構Cの発掘に費やされ、小さな土のストゥーパがいくつか出ただけであった；翌21日は同じ遺構を調査し、摩滅した樺皮写本ともう一つの完全な写本 (No. 1 *Samghāṣūtra*) が中央の柱の下、約2mのところから発見された；22日には、遺構CとAとで発掘が行われ、Cから小さなストゥーパがいくつかと写本 (No. 2 *Samghāṣūtra*) が発見され、それより深い場所で他の写本 (No. 3 *Samghāṣūtra*) も発見された；23日には遺構Cから貝葉写本 No. 4 **Āryadharma* が、そしていくつかの写本断簡が発見された；24日、25日と遺構Cでの発掘がおこなわれたが、何も発掘されなかった；26日に遺構周辺を発掘したが何も発見されなかった。こうして発見されたものが現在の「スリナガル・コレクション」である。

この報告に従う限り、このコレクションに含まれる断片は1938年8月23日に、遺構Cから発見されたことになる。所謂「ギルギット写本」はどのコレクションの写本も遺構Cから発見されている。

³⁵ von Hinüber 2014: 111–112 及びそれに付された “Additional Note on the Srinagar Collection by Klaus Wille” (pp. 112–113) を見よ。

³⁶ (CT) とは Ch. Tripāṭhī 博士のことで、同定者である。KW とは Klaus Wille 博士である。

³⁷ 同コレクションに含まれるこのアヴァダーナの写真、その転写テキストを送って下さり、またこうして発表する許可を下さった Wille 博士に心より感謝したい。

ストと「スリナガル・コレクション」の断片の転写テキスト、更にそれぞれの写真を突き合わせた結果、およそ以下のようなことがわかった。

テキストの対応を見ると、A 86.1-3 は全て片面のみの断片で、A 86.1 は § 38-40 に、A 86.2 は § 32-34、A 86.3 は § 100-102 に相当するテキストを残している。また C 153A, B [= C 153.1, 2]³⁸ は A 86.2 と同一断片を構成するものであった。

A 86.1 はその文字からも「デリー・コレクション」の写本Cと同じ写本に属することがほぼ明らかなので、コンテキストから第160葉裏に相当する (§ 41 から写本Cの第161葉表が始まる)。またテキストの続き方としては A 86.2 は A 86.1 の表面になることが明らかなので、{A 86.2 + C 153.1, 2} は写本Cの第160葉表となる。更に、A 86.3 [= §§ 100–102] が写本Cと同じ写本に属するとすれば、第167葉が § 97 で終わっているの、第168葉表ということになる。

写本Bとの関係で言えば、{A 86.2 + C 153.1, 2} [= fol. 160 recto] はテキストの §§ 32–34 に相当し、写本Bの {verso: 51c.3278 + 52c.3303} が §§ 32–36 に相当するので、ここで重複している。したがって、写本BとCとは別であることが確定する³⁹。

尚、「スリナガル・コレクション」にはこのアヴァダーナ以外に二つのアヴァダーナ写本 (Divyabhojana-avadāna(?)/Candana-avadāna: A61 [KW]; Viśvantarāvadāna: A133.a, b, c [KW]) がある。Wille 博士からの情報では、後者の *Viśvantarāvadāna* は「デリー・コレクション」の写本⁴⁰とは別のものであるとのことである。また、これまでのところ、「スリナガル・コレクション」のうち、「デリー・コレクション」と同じ写本に属するものは無いとのことであり、したがって、この『スマーガダー・アヴァダーナ』の写本Cが例外的な事例であるといつてよい。

3. 3 現存写本の対応

ギルギット写本の『スマーガダー・アヴァダーナ』は伝承上、チベット訳に最も近い。そのチベット訳の分節（全105節）に合わせて、3写本に残されたテキストを示すと以下のようになる（‘○’がテキスト有を表す）：

A: 15○○○○○○○27 36○○○○○○○○49 60○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○103

B: 1○○○○○○○○13 29○○○○○36

C: 32○○34 38○○41 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○97 100○○102

もっとも近いチベット訳とつきあわせると、各写本が残しているテキストの全体が見えてくる。上に示したように、どの写本にも対応せず、テキストとして欠落しているのは § 13–15, 27–29, 34–36, 104–105 になる。また、写本 B が冒頭部分 §§ 1–13 に対応しているが、この写本は二つの断片が接合し、しかも完全な形では残っていないために、テキストも断片的である。とはいうものの、こうしてほぼ全体は確保でき、後半では二本のほぼ完全な葉でテキストが手に入ることになる。しかもその二本は異なる文字で書かれたもの、即ち同じテキストでありながらおそらくは筆写された時期が異なるものであることが極めて注目に値する⁴¹。

³⁸. von Hinüber 2014 出版後に、Wille 博士が番号付けを変更したとのことである (personal communication)。

³⁹. 我々が採用するチベット訳本の分節。これは Groth §§ 25-27 に相当する。

⁴⁰. Ser. No. 8, 52f; FE 157–174 = 1332–1348, 3314–3315.

41. 同じテキストが異なった文字で書かれたという観点でギルギット写本全体を見ると、

3. 4 他のヴァージョンとの相違

ギルギット本は大筋についてチベット訳本と一致する。そして、これらは同じサンسكريットテキストであるネパール本や BAK § 93 と幾つかの点で異なる。それについては既に別稿で指摘した⁴²。また、ギルギット本とチベット訳本とでも少ないながら差異が見いだせるが、これについてもその同じ稿で扱ったのでここでは触れない。一つだけギルギット本とチベット訳本のテキスト末尾が大きく異なる点を指摘しておきたい。

これは世尊による夢占いを聞いたクリキン王とカーンチャナ・マーラーが善根を植えたと言語部分にある。

Tib. § 100. bcom ldan 'das kyis bka' stsal ba | gang bcom ldan 'das yang dag bar rdzogs pa'i sangs rgyas 'od srung la 'ang rgyal po Kṛ kī dang gser phreng can gyis thar pa'i cha dang 'thun pa'i dge ba'i rtsa ba rnams pa skyed ba yin no ||

「世尊がこのように語った。そのとき完全なる悟りに達したカーシャパ仏に供養して、クリキン王と王女カーンチャナ・マーラーは数々の善根をことごとく植えた」

Gilgit [Ms A]: yāvad Bhagavatā Kāśyapena samyakṣambuddhena rāja Kṛkes tādṛśī dharmade .. + + /// + + (FE1424; 34r4) yām śrutvā rājā Kṛkiṇā anekaiś ca vārāṇṣāṣṭyakaiḥ brāhmaṇagr̥hapatīśatasahasraiḥ satyadarśanam āsāditam dvitīyo *1dharmac[a] + + /// (FE1424; 34r5)rtitaḥ Kāmcānamālā yā ca mokṣa-bhāgīyā[n]. kuśalamūlāni ropitāni •

*1. Ms C. A86.3a: /// .. [dh]. [m]. [c](a)krapravartit. ... + + + + [y]ā [c]. + + + + + ///

「完全に悟りに達したカーシャパ仏によってクリキン王に法の教え ... を聞いたクリキン王によってバラナシに住む多くのバラモン、人々に真実の教えが見られた。第二の法輪（を回して）カーンチャナ・マーラーは解脱の種を植え、善根を積んだのである。」

写本Aの読みを写本Cによって補えるが、クリキン王について述べる前半部分はむしろネパール本 § 259: tato bhagavatā tasya rājñas tasya ca mahājanakāyasya tādṛśī caturāryasatyasampravedhikī dharmadeśanā kṛtā, yām śrutvā caturāṣṭīyā prāṇīśatasahasraiḥ satyadarśanam kṛtam に近い。この後、テキストはギルギット本・チベット訳本共に過去物語の人物が現在物語の主人公であることを教える連結があるが、チベット訳本には更に、黒白業によって黒白斑の異熟があることを説く、アヴァダーナの定型句があつて、物語が終わる。ギルギット本は写本Aのみが末尾を持つが、黒白業云々という定型句の部分を欠いている。

以下では、将来的に予定している校訂テキストの基礎資料として各写本の転写テキストを提示したい。対応するチベット訳本の分節を [Tib. § **] として差し込むが、このチベット訳本は岩本博士のラサ版テキストを用いる⁴³。紙面の都合で今回は写本Aのみを掲載する。

Bhaiṣajyaguru-sūtra がそうである。このテキストは5本の写本があるが、そのうち整理番号32番 (one folio = Dutt's A and Schopen's V) だけが Gilgit/Bamiyan Type II 或いは Protośāradā で書かれ、他の写本 (Ser. nos. 10b, 31, 34, 51a) は、Gilgit/Bamiyan Type I である。あるいは、*Samghāṭasūtra* (No. 39, fifteen folios) が Gilgit/Bamiyan Type II 或いは Protośāradā で書かれ、他の写本 Ser. nos. 16, 36, 37, 38a は Gilgit/Bamiyan Type I である。これはギルギット写本が発見された場所が写本の書写室であった、或いは僧侶たちの持ち物、或いは新たに作成されて納められたものという、いまだ確定していない発見場所の特定の問題に絡む。Fussman 2004 および Schopen 2009 (前掲注26参照)。(複数の写本があるということだけで言えば、法華経や般若経写本などがある。しかし、それらは同じ文字、例えば Gilgit/Bamiyan Type I だけで書かれているという違いがある。)

⁴² 工藤 2014b 参照のこと。

⁴³ Görtz 1993 にはチベット校訂本として、Berlin, Derge, Lhasa, Narthang, Peking, Tog Palace, Tokyo (Kawaguchi) のカンジュール写本／版本が参照され、テキストの分節は岩本博士によるものに準じている。尚、以下ではチベット訳本の異読に関しては扱わないこととする。

The *Sumāgadhā-avadāna* (Gilgit version): Transliteration of Manuscript A

Folio 26 recto, Ser. no. 7b.; FE 1285

- 1 /// + + ⁴⁴vidhā .. [kṣ]. [ṇ]īyā⁴⁵ vāmā kīdrgvidhā bhaviṣyanti⁴⁶ • [Tib. § 15] sā tayā proktā
asti cchāstā ato vi
- 2 /// .. carācarake loke dakṣiṇīyaḥ kevaṃvidhā⁴⁷ [Tib. § 16] sa te śāstā sā prāha • śāstā hi me
campaka⁴⁸
- 3 /// + [v]iś. ddhaprajñas trailokya-m-apratisamo jagato viśiṣṭaḥ [Tib. § 17]
sahaśravaṇa⁴⁹ prahrṣṭamanāḥ
- 4 /// + + + + + [Tib. § 18] + + [g]. dhā⁵⁰ prāha • bhaktaṃ sadyaṃ kuruṣva • śvo
bhagavaṃtam ānayaṣyāmi yāvat taiḥ
- 5 /// [Tib. § 19?] + + + + + + + + + [s]yāṃ diśi bhagavān viharati tāṃ diśam aṃjalim
praṇamya⁵¹ bhagavato gu⁵²
- 6 /// + + + + + + + + + [Tib. § 20] evaṃ ca ku + [tī] vacanāni kathayati • bhagavān
mahākāruṇikāḥ

Folio 26 verso, Ser. no. 7b.; FE 1284

- 1 /// + .[y]. māḥ sva ihāgamaṇaṃ kartavyaṃ sa śrāvakaśaṃghena • [Tib. § 21] āmā ca
viśuddhaś[ī]lāḥ aviśuddha
- 2 /// + .[vā] kṛpām āgamaṇaṃ kuruṣva⁵³ • [Tib. § 22] yāvat taṃ puṣpadhūpaṃ
bhṛṅgārodakaṃ cākāśena saṃprasthitaḥ bhaga
- 3 /// + .[v]. [ś]. [yat]i • [Tib. § 23] tac ca bhṛṅgarodakaṃ bhagavataḥ purato
vaiḍūryadaṇḍavad avasthitam* puṣpākāśe⁵⁴ bhagava⁵⁵

⁴⁴. = Tib. § 14.

⁴⁵. Read (evaṃ)vidhā (da)[kṣ](i)[ṇ]īyā.

⁴⁶. Cf. Skt(N) § 17: *sa provāca: ārye yady evaṃvidhā dakṣiṇīyāḥ. pāpakāriṇaḥ punaḥ kīdṛśā bhavanti*.

⁴⁷. For *kaivaṃvidhā*.

⁴⁸. *hi me campaka*: read *hemacampaka*. According to Iwamoto 1968b: 74, Ms B of Nepalese recension has a following description which is neither found in other Nepalese manuscripts nor in Chinese translations: *asti Śrāvastyāṃ pitur me mahāvihāre śāstā hemacampakaśairo [< -śailo] nirdhāntahemaparatimaḥ kanakāvadātṛaḥ viśuddhaśīlāḥ suviśuddhaprajño tri[< trai-]lokyāprati mokṣa[na]trātā. viśiṣṭaḥ sa Bhagavān upeto mātṛtaḥ pitṛtaḥ saṃśuddhaḥ ...*

⁴⁹. For *sahaśravaṇena*.

⁵⁰. Read (sumā)[g](a)dhā.

⁵¹. Cf. Skt(N) § 29: *tataḥ sumāgadhā bhavanaprṣṭham abhiruḥya maṇḍalakam upalipya puṣpāṇy avakīrya bhagavantam abhinamasya yasyāṃ diśi prativasati tasyāṃ diśi ...*

⁵². For *gu(ṇān)*. Cf. Skt(N) § 29: *... puṣpāṇi kṣipat, dhūpaṃ ca dadāti, bhṛṅgārodakaṃ ca bhagavato nimantraṇakaṃ preṣayati*.

⁵³. *Divyāvadāna* § 20. *Pūrṇāvadāna*, C/N. ed. p. 43, 22–24: *viśuddhaśīla suviśuddhabuddhe bhaktābhisāre satatārthadarśin | anāthabhutān prasamīkṣya sādho kṛtvā kēpām āgamaṇaṃ kuruṣveti ||*

⁵⁴. For *puṣpā(ṇy ā)kāśe*.

⁵⁵. Cf. Skt(N) § 30: *tatas tāni puṣpāṇi buddhānāṃ buddhānubhāvena devatānāṃ ca devatānubhāvena haṃsapaṅktir ivākāśe jetavanābhīmukhāni saṃprasthitāni, dhūpo 'bhrakūṭavad vaiḍūryaśalākavedakaṃ*

- 4 /// [Tib. § 24] +⁵⁶ yuṣmān ānando bhagavantam pṛcchati • bhagavan kutaḥ idam nimantraṇam āgatam* bhagavān āha • pūrṇa
- 5 /// vy[ā] • [Tib. § 25] tīrthāvaṣṭabdhām taṁ nagaram ṛddhivikurvaṇam kartavyām* yāvad āyusmān ānando vṛddhānte sthitvā śalākā⁵⁷
- 6 /// [Tib. § 26?] .. hṇam =⁵⁸ tu⁵⁹ pūrṇavardhanam nagaram gantavyam tīrthāvaṣṭabdhām tan nagaram* [Tib. § 27] yāvad vṛddhāntā śalākā

[No. 27 folio missing; ≡ §§ 27–36]

Folio 28 recto, Ser. no. 10c.; FE 1414

- 1 [Tib. § 36] d⁶⁰ āyusmāṁc chāriputra siṃharatham abhinirmāya uparidhyākāśe⁶¹ (')bhyā-gacchati • [Tib. § 37] tataḥ sa gr̥hapatih pṛcchati sumāgadhi ayan te sa śāstā yo (')yam siṃharathenāgaccha
- 2 ti • tataḥ sā kathayati nna : ayam śāripuro nāma bhikṣuḥ bhagavatā prajñāvatānāgāgro⁶² nirdiṣṭaḥ [Tib. § 38] asya garbhagatasya mātā sarvajambudvīpāvādino nigṛhītaḥ
- 3 ayam dvitīyaḥ śāstā dvitīyagānārdha○senapatir dha<rma>cakrānuvartakaḥ sa eṣa siṃharathenābhyāgataḥ [Tib. § 39] tadanantaram āyusmān mahāmaudgalyāyanah airā
- 4 vaṇaprakhyam nāgarājāna{h}m abhinirmāya u○paridhyākāśenāgacchati⁶³ • [Tib. § 40] tataḥ sa gr̥hapatih sumāgadhi{m} ayam te sa śāstā yo (')yam airāvaṇanāgarājapra
- 5 khyena hastināgacchati • sā kathayati nāyam bhagavatā riddhimatānām agro nirdiṣṭam [Tib. § 41] anena ridhyā śakrasya devendrasya vaijayantaḥ prāsādaḥ pādāṁguṣṭhena saṁcālitaḥ an
- 6 na nandopanandau nāgarājau vinītau • sa eṣa hastirathenābhyāgataḥ [Tib. § 42] atrāntare āyusmān aniruddhaḥ padmam śakaṭīcakrapādamātram divyam vaidūryadaṇḍam rupyake-saram⁶⁴ sarva

Folio 28 verso, Ser. no. 10c.; FE 1415

- 1 sauvarṇam abhinirmāya ridhyākāśenābhyāgacchati • [Tib. § 43] tataḥ sa gr̥hapatih pṛcchati sumāgadhi ayam te śāstā sā kathayati nna : ayam bhagavatā divyacakṣuṣānām agro
- 2 nirdiṣṭaḥ [Tib. § 44] asya puṇyabalaparigṛhītasya paṁcasthālīpākaśatāni dvāre tiṣṭhanti • anāyācitam cīvaram prāvarati • alpam anāyācitam piṇḍapātām

bhagavato 'grataḥ sthitam.

^{56.} For (*taṁ dṛṣṭ vā ā*)yuṣmān.

^{57.} For *śalākāṁ* (*cārayann evam āha*).

^{58.} Avoidance of knots.

^{59.} Read (*gr*)hṇamtu.

^{60.} For (*yāva*)d.

^{61.} For *upa<ri> riddhyā-* [*ri < r*].

^{62.} For *prajñāvatānām agro* [*< prajñāvatām agro*], see also 28r5: *riddhimatānām* [*< rddhimatām*] *agro*; 28v1: *divyacakṣuṣānām* [*< divyacakṣuṣām*] *agro*. Skt(N) § 47: *prajñāvatām agro nirdiṣṭaḥ*.

^{63.} For *upa<ri> riddhyā-* [*ri < r*].

^{64.} For *rūpya-*.

- 3 śayanāsanaglānapratyayabhaiṣajyaṃ pari○bhumje⁶⁵ • alpam anāyācitam sa eṣa padmara-thenābhyāgataḥ [Tib. § 45] atrāntare āyusmām pūrṇo maitrāyaṇīputraḥ garu
- 4 ḍa<ra>tham abhiruhya ridhyākāśenābhyāgacchati [Tib. § 46] tataḥ ○ sa gr̥hapati pr̥cchati • sumāgadhi ayaṃ te śāstā • yo (')yaṃ garuḍarathenāgacchati • sā kathayati nna :⁶⁶ [Tib. § 47] atrāntare
- 5 nāyusmān aśvajit praśānteryāpathenābhyāgacchati • [Tib. § 48] tataḥ sa gr̥hapatiḥ pr̥cchati sumāgadhi ayaṃ te sa śāstā yo (')yaṃ pātravyagrapāṇiḥ sā kathayati nna :
- 6 ayaṃ aśvajin nāmnā bhikṣuḥ ayaṃ īryāpathena praśāntena mattam dviradām damayati • [Tib. § 49] asya praśāntam īryāpatham dr̥ṣṭvā śāriputra⁶⁷ dr̥ṣṭasatyah samvṛttah

[No. 29 folio missing; ≡ §§ 49–59]

Folio 30 recto, Ser. no. 10c.; FE 1416

- 1 [Tib. § 60] anena nadī gaṃgā uttatukāmena⁶⁸ pravamtyoktā⁶⁹ : vṛṣale tiṣṭha asya ca vacanasyāvasāne parvatakūṭa iva sthitāḥ sarvathā na pranahati • amkaśavevaratā[d]ite⁷⁰
- 2 va dvinadavadhūḥ⁷¹ sa eṣa sāra sarathāvasthito⁷² (')bhyāgataḥ [Tib. § 61] atrāntare cāyusmām groṇakoṭīvi(m)śaḥ⁷³ vanagahanacamkramāvasthitaś camkramam <a>bhyāgacchati • [Tib. § 62] tataḥ sa gr̥hapa
- 3 tiḥ pr̥cchati sumāgadhi ayaṃ te sa śāstā ○ yo (')yam asmin vāne drumaśatākīrṇe camkramamto (')bhyāgacchati • sā kathayati nna : ayaṃ groṇo⁷⁴ nāma bhikṣuḥ bhagava
- 4 tā ārabdhavīryāṇām agro nirdiṣṭaḥ [Tib. § 63] asya ○ jātamātrasya pitā jananam śrutvā viṃśatikotiḥ{h}r ācchāditaḥ yasya pādatalasyādhaś caturamgulaṃ romasya sam
- 5 jātam yasya yūṣodane⁷⁵ paṃcakarṣāpaṇaśatāni byayam⁷⁶ upagacchanti • ayaṃ bhagavato glānasyā[Tib. § 64]yusmatā mahāmaudgalyāyanenānīya bhagavatopanītam yasya ga
- 6 ndhe sarvam veṇuvanam āpūritam* yaṃ rājā bimbisāro ghrāyāsvādya param vismayam āpannaḥ [Tib. § 65] yasya pādau⁷⁷ nikṣiptamātreyaṃ⁷⁸ pṛthivī pracalitā yasya pravrajitasya

⁶⁵. For *paribhūkte*.

⁶⁶. After this, some passages are missing. See Ms C, 161v1–2: /// + + [g].[hapati] p. c. [ti] s. māgadhe ayaṃ te sa śāstā yo (')yaṃ garuḍarathenāgacchati • sā kathaya .. /// (161v2) /// + [kṣu] bhagavatā dharma-[ka]th[i]kānām agro [n]ir[i]ṣṭa sa eṣa garuḍarathenābhyāgata • ||

⁶⁷. For *śāriputro*.

⁶⁸. For *uttartu-* (Ms C: 163r3: *uttartukāmena*).

⁶⁹. A scribal error for *sravamtyoktā*.

⁷⁰. For *amkaśavegatāditeva* (Ms C. 163[FE335–3271]r3–4: *amkaśavegatāditeva*).

⁷¹. For *dvirada-*, cf. Ms C, 163[FE3271]r4. *dviradavadhū*.

⁷². A scribal error for *haṃsa-rathā°*, cf. § 59. Ms C, 163[FE3271]r4. *sa eṣa {{sāra}} <<haṃ>>sa-rathenāvasthito*.

⁷³. For *śroṇa-*.

⁷⁴. For *śroṇo*.

⁷⁵. For *yūṣaudane* [*yūṣa + odana*]?, cf. Skt(N) § 124. *sthālīpākārthe*; Tib. 'di dang po'i zan (at this first meal).

⁷⁶. For *vyayam*.

⁷⁷. For *pāde*.

⁷⁸. For *nikṣiptamātra iyaṃ*.

Folio 30 verso, Ser. no. 10c.; FE 1417

- 1 caṃkramamāṇasya pādebhyaḥ śoṇitaṃ pragharitaṃ bāyasā{ra}⁷⁹ pibaṃti sa eṣa caṃkrame caṃkramamāṇo (')bhyāgataḥ [Tib. § 66] etasmiṃn antare āyuṣmān rāhulaś cakravartiveṣam a
- 2 bhinirmāyābhyāgacchati • [Tib. § 67] tataḥ sa grhapatiḥ prcchati • sumāgadhi : ayam te sa śāstā yo (')yam cakravartī⁸⁰ sā kathayati nna • śuddhodanapautraḥ eṣa hi bhagava
- 3 taḥ putraḥ śikṣāgaauravāṇām agro nirdiṣṭo ○ bha<ga>vatā • [Tib. § 68] eṣa pitur ujjhītāśryam⁸¹ dyotayamāno (')bhyāgacchati cakravartiveṣa • saptaratnasamanvāgataḥ putra
- 4 sahasraparivṛtaḥ sacivaiṣya⁸² grahanakṣatra○tārāgaṇair iva śaraccharvatīkaro rā-jamārgāmbaram avagāhate narapati rajanīkaraś caturudadhisalilava
- 5 satam vyapagatabhayarogaśokaharaṇāriraṇāmbarayuvatiyati mṛgavihagā<nā>m garuḍa iva divasakarapathakaraś caturdvīpeśvara cakravartī daśaśatana
- 6 yana iva sudharmām dharmeṇa bāmāno⁸³ (')bhyāgataḥ [Tib. § 69] evaṃ kaiś ca jvalanti • evaṃ vicitrāṇi prātihāryāṇi darśayamānāgacchati • [Tib. § 70] gām bhitvā utpatamty eke nipa .[y].m ..[e]⁸⁴

Folio 31 recto, Ser. no. 10c.; FE 1418

- 1 ke nabhastalāt ī ānā⁸⁵ nirmītā hy eke paśca⁸⁶ riddhivatām balam^{*87} [Tib. § 71] tataḥ sa bhagavām śiṣyeṣu gateṣu prasthitaḥ atha bhagava<tā> tādrīśā + +⁸⁸ utsrṣṭā{ya} ya[th]. ..⁸⁹
- 2 yā sarvaś cāyām jāmbudvīpaḥ dravakavarṇayā prabhayāvabhāsitaḥ adhīmātraṃ śrāvastyā yāvat pūrṇavardhanam atrāntare mahāprabhamaṇḍalam utsrṣṭam yad atra cakṣu
- 3 r na pratihanyate sarvaṃ paśyanti • [Tib. § 72] bhagavāmś cā○kāśe (')vasthitaḥ va-jrapāṇiḥ prṣṭhato (')nubaddhaḥ upari śuddhāvāsā adhastāt kāmāvacarā vāme pārśve śakra dakṣiṇe brahmā
- 4 [Tib. § 73] tathā paṃcaśikhasapṛyanāladattaprabhṛta○yo⁹⁰ ⁹¹madhuramadhuram vīṇāveṇupāṇavamṛdamgādibhir vāditraviśeṣair madhuramadhuram vādyamāna⁹² puṣpa-gandhamālyaiś cāva

^{79.} For *vāyasā*.

^{80.} For *cakravartī*, cf. Ms C: 164r1. *cakravartive(ṣe)ṇāgacchati*.

^{81.} For *ujjhītā(m) śriyam* or *ujjhita-śriyam*, Ms C: 164r2. *ujjhītāśriyam*, cf. Skt(N) § 210: *ujjhītām śriyam uddyotamānaḥ*.

^{82.} For *sacivaiś ca* = Ms C 164r3.

^{83.} ? Ms C: 164r5. *pālayamāno*.

^{84.} Read *nipa(t)[y](a)m(ty) [e]ke*.

^{85.} A scribal error for *āsane*, see Ms C. 164v1.

^{86.} A scribal error for *paśya*.

^{87.} *Divyāvadāna* § 20. *Pūrṇāvadāna*, C/N ed. p. 46, 1–2.

^{88.} Fragment in this place is broken.

^{89.} Read *ya[th](ā ta)yā*.

^{90.} For *-supriya-*.

^{91.} Ms C. 164v5 adds: *gaṃdharva* (< *gandharvāḥ*) (Tib. *dri za rnam*s).

^{92.} For *vādyamānā*.

- 5 kīryamāṇaḥ⁹³ mahāvibhūtyu⁹⁴ [Tib. § 74] bhagavān ākāśena samprasthitaḥ vicare ca bhagavataḥ saptabhiḥ prāṇasahasreḥ⁹⁵ prathamataḥ supathe pratiṣṭhāpitāḥ tataḥ paścāt pūrṇavardhana
- 6 m adhigataḥ [Tib. § 75] tatra caryādhiṣṭhāne aṣṭādaśāni dvārāṇi tatra bhagavatāṣṭādaśabuddhā nirmitaḥ dvāre dvāre buddhaḥ yāvad bhagavaṁ sumāgadhbhavanam adhigataḥ

Folio 31 verso, Ser. no. 10c.; FE 1419

- 1 [Tib. § 76] tataḥ sa janakāyaḥ buddhaṁ na paśya{m}ti te kṣubdhās tad grhaṁ bhetum ārabdhāḥ tato bhagavatā sarvaṁ tad adhiṣṭhānaṁ sphaṭikamayam nirmitaṁ yatra sarvagrheṣu ca buddhavigraho
- 2 dṛśyate [Tib. § 77] yāvat pūrṇavardhanakāyaiḥ sumāgadhapramukhaiḥ prāṇasatasahasraiḥ bhagavato gandhamālyapuṣpadhūpaiḥ pūjā kṛtā [Tib. § 78] bhagavatā ca sumāgadhapramukhasya
- 3 tasya janakāyasya tādrśī dharmadeśanā kṛtā yāṁ cchrutvā sumāgadhapramukhair aparimānaiḥ satvaśatasahasrai⁹⁶ satyadarśanam āsāditam sarvā ca sā parṣadbu
- 4 ddhanimnā dharmā pravaraṇā samghapragbhārā vyavasthāpitā : [Tib. § 79] bhikṣavaḥ sa(m)digdhāḥ sarvasaṁśayānām cchettāraṁ sarva<pra>śnānam⁹⁷ antakṛt* sarvānuśayānām kuśalam buddhaṁ bhagavantam
- 5 prcchanti • āścaryaṁ bhagavan* yāvad iyaṁ sumāgadham āgamyānekaḥ prāṇasatasahasrā sugamo krparāyaṇāḥ samvṛttaḥ buddhakāryaṁ cānayā kṛtam • [Tib. § 80] bhagavān āha •
- 6 na kevalam idānī(m) yad atīte (')dhvani buddhakāryam anayā kṛtam tac chruṇudhvaṁ • bhūtapūrvam bhikṣavo (')tīte (')dhvani : viṁśavarṣasahasrāyūṣāyāṁ prajāyāṁ kāśyapo nāma sa

Folio 32 recto, Ser. no. 10c.; FE 1420

- 1 myaksaṁbuddho⁹⁸ lok[a u]dapādi • [Tib. § 81] tasmimś ca samaye vārāṇasyāṁ nagare rājā kṛkir nāma rājyaṁ kārayati • tasya ca duhitā jātā kāmcanamālābdhā⁹⁹ tasyāṁ kā(m)canamālikā
- 2 nāma sthāpitaṁ [Tib. § 82] yāvat sā dārikā maha{m}tī bhūtā sā ca paṁcabhir vayasikāśatai¹⁰⁰ sarvābhiḥ kumārībhiḥ parivṛtā : kāśyapaṁ samyaksambuddhaṁ paryupāsate tayā bhagavata
- 3 ś cāntike • prasādaḥ pratilabdhaḥ kāśyapa¹⁰¹ saomyaksaṁbuddhaḥ tayā yāvajjīvaṁ cīvarapiṇḍapātaśayanāsanaglānapratyayabhaiśajyapariṣkāraiḥ [Tib. § 83] tasmimś ca kāle rā

⁹³. For *kīryamāṇaḥ*.

⁹⁴. For *mahāvibhūtyā* (Tib. 'byor pa chen pos). "with such great majesty" (Groth: Mit solch grosser Majestät).

⁹⁵. For *-sahasraiḥ*.

⁹⁶. For *satvaśatasahasraiḥ*.

⁹⁷. For *sarva<pra>śnānam*, Ms C. 165v1: [sa]rva[p]r[a]śnānam.

⁹⁸. In the Gilgit version, buddha's ten epithets are not described (Skt(N) § 243 and Tib. have).

⁹⁹. For *kāmcanamāla(la)bdhā* [omission by hapology].

¹⁰⁰. For *vayasikāśataiḥ*.

¹⁰¹. For *kāśyapaḥ*.

- 4 jñā kṛkinā ekarātryā daśasvapnāni dṛṣṭā○ni sa paśyati [Tib. § 83(1)] hastinām¹⁰² ca vātāyanena {na} nirgacchataḥ¹⁰³ tasya paśyataḥ pucchato lagnaḥ [Tib. § 83(2)] triṣṭa-sya¹⁰⁴ paś[c]ā¹⁰⁵ k[ū]po dhāvati
- 5 [Tib. § 83(3)] saktuprasthena muktuprastho vikrāyati¹⁰⁶ • [Tib. § 83(4)] candanaṃ k[āṣ]ṭh[e]na samānīkriyate¹⁰⁷ • [Tib. § 83(5)] āramaḥ puṣpaphalasampannaḥ adattādāyibhi¹⁰⁸ hryati • [Tib. § 83(6)] kaḍabhena ga + + [s].[iv]i .[r].¹⁰⁹
- 6 syate • [Tib. § 83(7)] aśucimrakṣito markataḥ parām anumalimpati • [Tib. § 83(8)] markatasya rājābhiṣekaṃ paśyati • [Tib. § 83(9)] paṭo aṣṭādaśabhir janaiḥ kaḍhyate¹¹⁰ • na ca phuṭati [Tib. § 83(10)] + + + + +¹¹¹

Folio 32 verso, Ser. no. 10c.; FE 1421

- 1 ś caikadeśe sannipatya kalahabhaṇḍanavighrahavivādenātināmayati • [Tib. § 84] tataḥ sā¹¹² rājā pratibuddho bhītaḥ trastaḥ samvignaḥ mā me rājyā¹¹³ cyutir bhaviṣyati • jī .. + + +¹¹⁴
- 2 ntarāya tena svapnakādhyāyakā nimittajñās ca brāhmaṇā sannipatitāḥ • teṣāṃ svapnāni niveditāni • [Tib. § 85] te ca kāmcanamālāyā vidviṣṭāḥ te kathayaṃti • yajñam te ya[s]ṭ. .[y]. + +¹¹⁵
- 3 te sarvapriyo¹¹⁶ bhavati • śatasya hrdayena ○ agnir hotavyām¹¹⁷ tataḥ sa rājā samvignaś cintayati • sarvapriya¹¹⁸ me kāmcanamālā [Tib. § 86] tayā ca kāmcanamālāyā śru
- 4 tam sā viśārādā rājñāḥ sakāśam upasaṃkrāntā : upasaṃkramya kathayati • deva sūrye uḍite kiṃ dīpena prayojanaṃ eṣa bhagavān kāśyapaḥ samyaksambuddha riṣivadane
- 5 viharati • mṛgadāve tam upasaṃkramya pṛccha yathā te sa bhagavān vyākaroti tathā tvam dhāraya • [Tib. § 87] atha kṛkī rājā vārāṇasyām nagare ghaṇṭām udghoṣitavān* eṣo (')ham bhagava
- 6 t sakāśam upasaṃkramāmi • so (')nekaśatasahasraparivārah sārḍham tayā kāmcanamālāyā yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ upasaṃkramya bhagavataḥ pādava

Folio 33 recto, Ser. no. 10c.; FE 1422

^{102.} For *hastinām*.

^{103.} Read *nirgacchantam*, see also 33r2: *hastināgaṃ vātāyanena nirgacchantam*.

^{104.} For *trīṣṭasya*.

^{105.} For *paś[c]ā(t)*.

^{106.} Pass. form?, cf. BHSG. s.v. *krī-*, “(4) Pass. vi-krāyati (or -te?)”; BHSD. s.v. *vikrāyati*.

^{107.} For *samānīkriyate*.

^{108.} For *adattādāyibhir*.

^{109.} Read *ga(ndhaha)[s](t)[i](r) [v]i(t)[r](ā)syate*, Ms C. 166r4: *gaṇḍhahasti vitrāsyate*.

^{110.} Unknown verbal form but see BHSG s.v. *kaṭṭa-ti* (draw), BHSD s.v. *kaṭṭati*: (corresps to Pali *kaḍḍhati*, Skt. *kṛṣ-*). A passive form derived from *kaṭ* + *ya*? (be drawn). Cf. *Abhis.* III. s.v. *kaḍḍha-* (p. 183).

^{111.} Read (*mahājanakāya*)ś, see Ms C 166r5; Skt(N) § 249(10).

^{112.} For *sa*.

^{113.} For *rājyāc*.

^{114.} read *jī(vitasya cā)ntarāya(h)*, see Ms C. 166v1; Skt(N) § 250.

^{115.} Read *ya[s]ṭ(av)[y](aṃ yaś ca)*, see Ms C. 166v2.

^{116.} For *sarvapriyo*.

^{117.} For *hotavyaḥ*.

^{118.} For *sarvapriyo*.

- 1 ndanam kṛtvā bhaga[v]. [t]. [h]¹¹⁹ purato niṣaṇṇo dharmasravaṇāya • [Tib. § 88] yāvad rājā kṛkī utthāyāsana¹²⁰ yena bhagavāms tenāṃjalim praṇamya bhagavant[a]m .t[a]d¹²¹ uvāca • iha mayā bha
- 2 gavamṇ ekarātryām daśasvapnā dṛṣṭāḥ pūrvāntan me bhagavān vyākuruṣva svapnaphalam • ihāham bhagavamṇ adrākṣam hastināgam vātāyanena nirgacchantam tasya paśyataḥ pucchaṭo
- 3 lagnaḥ [Tib. § 89] bhagavān āha • mā bhair mahārājā na ○ te rājyā cyutir bhaviṣyati • nāpi jīvitasyāṃtarāya¹²² [Tib. § 90] api ca {r}mahārāja bhaviṣyati varṣaśatāyūṣi prajāyāṃ śā
- 4 kyamunir nāma samyaksaṃbuddhaḥ tasya paści○me kāle śrāvakā bhaviṣyanti abhāvitakāyā abhāvitaśilā abhāvitacittā abhāvitaprajñā te bandhuvargam a
- 5 pahāya pravrajiṣyanti te vihāreṣu gr̥hasaṃjñā cittam upasthāpayiṣyanti • tasyaitat pūrvanimittaṃ [Tib. § 91] ya¹²³ tvam adrākṣī¹²⁴ tṛṣitasya paśyataḥ kūpaṃ dhāvantaṃ sā ..[i]m .[e]¹²⁵
- 6 + .[i] ..m .. g. hiṇām ca¹²⁶ • dharmam deśayiṣyanti • teṣāṃ śrotukāmatā na saṃsthāsyati • [Tib. § 92] ya¹²⁷ tvam mahārāja svapnam adrākṣī¹²⁸ saktuprasthena muktuprastho vikrā[y].
+ + + + +

Folio 33 verso, Ser. no. 10c.; FE 1423

- 1 + + .. t. y.¹²⁹ saktuprasthasyārthāya indriyabalabodhyamgaratnāni prakāśayiṣyanti • [Tib. § 93] ya¹³⁰ tvam svapnam adrākṣī¹³¹ candanam kāṣṭhārgheṇa vikrāyamāṇam tasyai + + + + +
- 2 + + +¹³² [t]īrthavacanāni gr̥hya buddhavacanena samānīkariṣyati¹³³ • [Tib. § 95]¹³⁴ ya¹³⁵ tvam svapnam adrākṣī¹³⁶ kaḍabhe{da}na gandhahastir vitrāsyate • tasyaiva śrāvakā bhaviṣyanti du[h] + +

¹¹⁹. Read *bhaga[v](a)[t](a)[h]*.

¹²⁰. For *utthāyāsanaḍ*.

¹²¹. Read *(e)t[a]d*.

¹²². For *jīvitasyāntarāya(h)*.

¹²³. For *ya(t) tvam*.

¹²⁴. For *adrākṣī(s)*, cf. BHSg 25.4: aorist (endings *-i*, *-ī*) used for any person and either number.

¹²⁵. Read *sā(rdhav)[i](hārya)m(t)[e]*, see Ms C. 167v1–2.

¹²⁶. Read *(vās)[i](nā)m (ca) g[r]hiṇām ca*, see Ms C. 167v2.

¹²⁷. For *ya(t) tvam*.

¹²⁸. For *adrākṣī(h)*.

¹²⁹. Read *vikrā[y](antaṃ tasyaiva śrāvakā bhaviṣya)t(i) y(e)*, see Ms C. 167v3.

¹³⁰. For *ya(t) tvam*.

¹³¹. For *adrākṣīś*.

¹³². Read *tasyai(va śrāvakā bhavi[33v2]ṣyanti) ye*, see Ms. C. 167v4.

¹³³. A scribal error for *samānīkariṣya(n)ti*.

¹³⁴. § 94 in Ms A appears after § 99, 34r1–3. In Ms C § 94 is not found after § 93 but unfortunately corresponding part of the folio no. 168 (in the Srinagar Collection) is broken; so we cannot say that § 94 appears after § 99.

¹³⁵. For *ya(t) tvam*.

¹³⁶. For *adrākṣīh*, cf. BHSg 25.5: ... the aorist, where the MIndic endings *e*, *i*, *ī*, and even the Sanskritizedet, *īt*, are used very commonly as 1 and 2 sg. and 3 pl. ...

- 3 + + +¹³⁷ rmā ye ca bhikṣavaḥ śīlavantaḥ kalyāṇadharmaṇaḥ te tām parivadiṣyanti • [Tib. § 96]¹³⁸ ya¹³⁹ tvaṃ svapnam adrākṣīd¹⁴⁰ aśucimrakṣito markataḥ param upalīpati • tasyaiva
- 4 + + + kā¹⁴¹ bhaviṣyanti duḥśīlāḥ pāpadharmaṇaḥ te śīlavantā bhikṣava{h}s¹⁴² codayiṣyanti smārayiṣyanti [Tib. § 97] yānyam¹⁴³ svapnam adrākṣīn¹⁴⁴ markatasya rājābhīṣekaṃ tas-
mim sama
- 5 ..¹⁴⁵ paṇḍakasya rājābhīṣeko bhaviṣyati • [Tib. § 98] ya¹⁴⁶ tvaṃ svapnam adrākṣīd¹⁴⁷ aṣṭā-
daśabhir janaiḥ paṭaḥ katyate¹⁴⁸ na ca pātyate • tasyaiva śāsanam aṣṭādaśākāraṃ nedam¹⁴⁹
gamiṣyati •
- 6 na ca vimuktipaṭaḥ śakṣyanti pāṭayitum¹⁵⁰ [Tib. § 99] ya¹⁵¹ tvaṃ svapnam adrākṣī¹⁵²
mahājanakāyam ekadhye sannipatitvā kalahabhaṇḍanavigraha[v]i[vād]e .. i .. yanti¹⁵³ •

Folio 34 recto, Ser. no. 10c.; FE 1424

- 1 tasyaiva śāsanam kalahenāmntardhāsyati • [Tib. § 94] ya¹⁵⁴ tvaṃ svapnam adrākṣī¹⁵⁵
puṣpaphalasampannam udyānam adattādāyibhir ahyayate¹⁵⁶ tasyaiva śrāvakā bha + + +
+¹⁵⁷ ///
- 2 takāyā abhāvitaśīlā abhāvitacittā abhāvitaprajñās te sāmghikāny agrapuṣpaphalājīvita-
hetoḥ¹⁵⁸ samghā cācchidya gṛhiṇādāsyanti tasyai + + +¹⁵⁹ ///

^{137.} Read *duḥ(śīlā pāpadha)rmāye*, see Ms C. 167v5.

^{138.} Ms C lacks § 96.

^{139.} For *ya(t) tvaṃ*.

^{140.} For *adrākṣīr*.

^{141.} Read *(śrāva)kā*.

^{142.} Read *śīlavato bhikṣūn* (pl.Acc.).

^{143.} For *yad anyam* [< *yānyam*].

^{144.} For *adrākṣīr*.

^{145.} Read *sama(ye)*.

^{146.} For *ya(t) tvaṃ*.

^{147.} For *adrākṣīr*.

^{148.} For *kṣyate*? See above folio 32[FE1420]r6 = Ms C 166[FE3245]r5: *kaḍhyate*.

^{149.} Apparently Ms reads: *nedam*. Read *-ākāraṃ idam*.

^{150.} Cf. Tib. § 98 (9): *rgyal po chen po l khyod kyis ras gcig mi bcu brgyad kyis dras kyang ma ral bar rmi lam du mthong ba l gang yin pa de ni l de nyid kyi bstan pa sde bcu brgyad du gyis par gyur te l [rnam par grol ba'i ras ni ral bar bya bar mi nus te l] de'i snga ltas [ni 'di] yin no ll* A sentence in square brackets is not found in Lhasa (= Iwamoto's text) but in other Kanjurs [text taken from, for example, Derge vol. 75, 297b5].

^{151.} For *ya(t) tvaṃ*.

^{152.} For *adrākṣīr*.

^{153.} Read *(nāt)i(nāma)yanti*, see above folio 32v1, Ms C.166r6.

^{154.} For *ya(t) tvaṃ*.

^{155.} For *adrākṣīh*.

^{156.} A scribal error for *āhryate*? Cf. 32[FE1420]r5: *hryati*, Ms C. 166[FE3245]r4: *hryate*.

^{157.} Read *bha(viṣyanti abhāvi)takāyā* = 33[FE1442]r4. There are two more *akṣaras* after this broken end.

^{158.} For *-phala-*.

^{159.} Read *tasyai(tat pū)rvanimittam*, cf. §90. 33[FE1422]r5. However, number of missing *akṣaras* are much more than this reconstruction.

- 3 rvanimittam [Tib. § 99] evaṃ dāruṇo mahārājānāga○taḥ kālo bhaviṣyati • [Tib. § 100] yāvad bhagavatā kāśyapena samyaksaṃbuddhena rājakṛkes¹⁶⁰ tādrśī dharmade .. + +¹⁶¹ ///
- 4 yām śrutvā rājñā kṛkiṇā anekaiś ca vārā○ṇaṣīyakaiḥ brāhmaṇagrhapatiśatasahasraiḥ satyadarśanamāsāditam dvitīyo dharmac[a] + +¹⁶² ///
- 5 rtitaḥ kāmcanamālāyā ca mokṣabhāgyā[n].¹⁶³ kuśalamūlāni ropitāni • [Tib. § 101] bhagavān āha • kiṃ manyadhvaṃ bhikṣavaḥ yā sā kāmcanamālā eṣā e[v]. +¹⁶⁴ ///
- 6 gadhā tavāsy[u]na¹⁶⁵ sā buddhakāryaṃ kṛtam etarhy api etām āgamyā buddhakāryaṃ kṛtam [Tib. § 102] bhikṣūṇāṃ sandeho jātaḥ buddhaṃ bhagavanta(m) prcchanti • kiṃ bhadanta ka ..¹⁶⁶ ///

Folio 34 verso, Ser. no. 10c.; FE 1425

- 1 kāmcanamālāyā baddhā{yā} jātā : [Tib § 103] bhagavān āha • anayaiva karmāṇi kṛtāni • bhūtapūrvam bhikṣavo (')nyāntarayā kārṣakabhāryayā pratyekabuddhastūpe nānā¹⁶⁷ ///
- 2 nām mālā kṛtvā stūpe āropitā • || ◎ ||¹⁶⁸

CONVENTIONS:

()	restored <i>akṣara</i> (s)
[]	damaged <i>akṣara</i> (s)
< >	omitted (part of) <i>akṣara</i> (s)
{ }	superfluous <i>akṣara</i> (s)
{{ }}	erased <i>akṣara</i> (s)
« »	interlinear insertion
+	one lost <i>akṣara</i>
..	one illegible <i>akṣara</i>
.	illegible part of an <i>akṣara</i>
*	<i>virāma</i>
,	<i>avagraha</i>
•	dot- <i>daṇḍa</i>

ABBREVIATIONS:

Abhis = S. Karashima, *Die Abhisamācārikā Dharmāḥ. Verhaltensregeln für buddhistische Mönche der Mahāsāṃghika-Lokottaravādins*. Band III. Grammatik, Glossar und Nachträge. Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica XIII.3. Tokyo 2012

BAK = Kṣemendra, *Bodhisattvavadāṇakalpalatā*

BHSD(G) = F. Edgerton, *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary*, 2 vols., New Haven 1953: Yale University Press; Reprint: Delhi, ²1970: Motilal Banarsidass.

¹⁶⁰. Read *rājñāḥ kṛkes*.

¹⁶¹. Read *dharmade(śanā kṛtā)*.

¹⁶². Read *dharmac[a](kraprava)rtitaḥ*, see. Ms C. A86.3a: /// .. [dh]. [m]. [c](a)krapravarttit. + + + [y]ā [c]. + + + + ///

¹⁶³. Read *-bhāgyā[n](i)*.

¹⁶⁴. Read *e[v](a sumā)gadhā*, see. Ms C. A86.3b: /// yā sā kaṃ[c]anamālā eṣā eva sumāgadhā.

¹⁶⁵. For tadāpy anayā ? Cf. *Saṅghabhedavastu*, II. 41, 16–18: yāsau kinnarī eṣaiva sā yaśodharā; tadāpy anayā mamārthāyātmā citāyāṃ muktaḥ; etarhy apy anayā mamārthāyātmā śaraṇaprṣṭhān muktaḥ iti.

¹⁶⁶. Read *ka(rma yena sā)*.

¹⁶⁷. Read *nānā(puṣpā)nām*.

¹⁶⁸. Rest is left blank.

FE = Facsimile edition see GBM.

FE1 = GBM 1959–74 edition.

FE2 = GBM 1995 edition.

GBM = *Gilgit Buddhist Manuscripts* see Raghu Vira and Lokesh Chandra.

Skt (N) = Sanskrit text of the *Sumāgadhā-avadāna* edited by Iwamoto on the basis of the Nepalese manuscripts [Iwamoto 1968: 7–44 (= 岩本 1968b: Appendix), 45–82 (critical apparatus)]

Tib. = Tibetan text of the *Sumāgadhā-avadāna* edited by Iwamoto on the basis of the Lhasa kanjur [Iwamoto 1964, 1968: 111–130 (= 岩本 1968b: Appendix)]

BIBLIOGRAPHY:

Clarke, Shayne

2014 *Gilgit Manuscripts in the National Archives of India. Facsimile Edition*. Vol. I: Vinaya Texts. New Delhi/Tokyo: The National Archives of India and The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University.

Cowell, E.B. and R. A. Neil

1886 *Divyāvadāna. A Collection of Early Buddhist Legends*, Cambridge: The Cambridge University Press.

Dutt, Nalinaksa

1939 *Gilgit Manuscripts*. Vol. I Srinagar: Calcutta Oriental Press, 1939 (reprinted as Bibliotheca Indo-Buddhica Series no. 14, Delhi: Sri Satguru Publications, 1984). [*Bhaiṣajyagurusūtra*: introduction = pp. 47–57, text = pp. 1–32]

Fussman, Gérard

2004 “Dans quel type de bâtiment furent trouvés les manuscrits de Gilgit?”, in: *Journal Asiatique* 292, 2004, pp. 101–150.

Gnoli, R.

1978 *The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu. Being the 17th and Last Section of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin*. Part II. Serie Orientale Roma, 49. Roma

Görtz, Markus

1993 *Die Legende von Sumāgadhā. Bearbeitung und Übersetzung von zwei indischen und einer tibetischen Fassung. Dem Fachbereich 11 (Aussereuropäische Sprachen und Kulturen) der Philipps-Universität Marburg als schriftliche Hausarbeit zur Magisterprüfung im Fachgebiet Indologie eingereicht von Markus Görtz, Marburg 1993*. [unpublished]

Groth, Uwe

1981 *Gilgit-Fragmente der Sumāgadhā- und Sucandra-Avadāna. herausgegeben, übersetzt und kommentiert. Schriftl. Hausarbeit dem Fachbereich Altertumswissenschaften der Freien Universität Berlin am 2. März 1981 zur Erlangung des Magistergrades vorgelegt von Uwe Groth, Berlin (West) 1981*. [unpublished]

1989 “«Десять снов царя Крикина». Фрагменты неопубликованной рукописи «Сумагадаха-Аваданы» из Гильгита,” *Буддизм: история и культура*, «Наука», Главная редакция восточной литературы, 1989, 84–91. [“«Desiat’ snov tszria Krikina». Fragmenty neopublikovannoy rukopisi “Sumagadkha-Avadany” iz Gil’gita,” *Buddizm: istoriya i kul’tura*, Moscow: «Nauka», Glavnaia redaktsiia vostochnoy literatury]. (“The Nine Dreams of King Krikin.” Fragments of the Unpublished *Sumāgadhā-Avadāna* from Gilgit”).

von Hinüber, Oskar

1981 “Die Erforschung der Gilgit-Handschriften. Neue Ergebnisse,” in: *ZDMG* 131: *9*–*11*.

2014 “The Gilgit Manuscripts: An Ancient Buddhist Library in Modern Research,” in: *From Birch Bark to Digital Data: Recent Advances in Buddhist Manuscript Research. Papers Presented at the Conference Indic Buddhist Manuscripts: The State of the Field, Stanford, June 15–19 2009*, ed. Paul Harrison and Jens-Uwe Hartmann, Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens 80; Denkschriften der philosophisch-historischen Klasse 460. Vienna: Österreichische Akademie der Wissenschaften, pp. 79–135.

Iwamoto Yutaka 岩本 裕

1959 “The *Sumāgadhā-avadāna*, a Buddhist Legend. Part1: Revised Sanskrit Text,” in: *Tokai Daigaku Bungakubu Kiyō* 1, 1–51 (『東海大学文学部紀要』第1号)

1964 “Die tibetische Version des *Sumāgadhā-avadāna*,” in: *Acta Asiatica* 7, 1–19.

- 1967 『佛教説話研究序説』 (仏教説話研究第1巻), 法蔵館 (*Bukkyō Setsuwa Kenkyū Josetsu*. Kyoto: Hōzōkan).
- 1968 *Sumāgadhāvadāna, Eine buddhistische Legende im Sanskrit. (Zwei Versionen des Sanskrittextes, mit der tibetischen Version und der vollständigen englischen Bearbeitung der vierten chinesischen Version, nebst der textgeschichtlichen Betrachtung.)* neubearbeitet herausgegeben, Kyoto: Hōzōkan.
- 1968b 『スマーガダー＝アヴァダーナ研究』 (仏教説話研究第5巻), 法蔵館 [新版, 1979年, 開明書院] (*Sumāgadhā-avadāna Kenkyū*. Kyoto: Hōzōkan; new ed. 1979, Tokyo: Kaimeishoin).
- Kudo Noriyuki 工藤 順之
- 2014 “Brief Communication: Newly Identified Folios in the *Gilgit Buddhist Manuscripts*,” in: *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University for the Academic Year 2013*, vol. XVII, pp. 517–8.
- 2014b 「ギルギット本『スマーガダー・アヴァダーナ』について」 『印度学仏教学研究』 63-1, pp. 357–351(L) [(196)–(202)].
 (“Gilgit Version of the *Sumāgadhā-avadāna*,” in: *Indogaku Bukkyōgaku Kenkyū* [= *Journal of Indian and Buddhist Studies*], 63-1, pp. 357–351(L) [(196)–(202)]).
- Plutat, Birte (Comp.)
- 1998 *Catalogue of the Papers of Ernst Leumann in the Institute for the Culture and History of India and Tibet, University of Hamburg, Alt- und Neu-Indische Studien (ANIST) Band 49*, Stuttgart: Franz Steiner Verlag 1998.
- Raghu Vira and Lokesh Chandra
- 1959-74 *Gilgit Buddhist Manuscripts (Facsimile Edition)*. Śāta-Piṭaka Series Volume 10, parts 1–10, Delhi: The International Academy of India. [= FE1]
- 1995 (reprinted as:) *Gilgit Buddhist Manuscripts, revised and enlarged compact facsimile edition*. Bibliotheca Indo-Buddhica Series 150, 151, 152, Delhi 1995 in three volumes.) [= FE2]
- Schopen, Gregory
- 1978 *The Bhaiṣajyaguru-Sūtra and the Buddhism in Gilgit*. Canberra [unpublished Ph.D. thesis].
- 2009 “On the Absence of Urtexts and Otiose Ācāryas: Buildings, Books, and Lay Buddhist Ritual at Gilgit,” in: *Écrire et transmettre en Inde classique / sous la direction de Gérard Colas et Gerdi Gerschheimer. (Études thématiques 23)*, Paris: École française d'Extrême-Orient, 2009, pp. 189-219.
- Tokiwai Tsurumatsu (常磐井鶴松) or Tokiwai Gyōyū (常磐井堯猷)
- 1898 *Studien zum Sumāgadhāvadāna. Enleitung zu einer mit Prof. E. Leumann vorbereiteten Ausgabe nebst Übersetzung der chinesischen Bearbeitungen*. Darmstadt 1898.
- 1918 *The Sumāgadhāvadāna, a Buddhist Legend, now first edited from the Nepalese MS. in Paris*, Isshinden 1918.
- Tripāṭhī, Chandrabhāl
- 1995 *Ekottarāgama-Fragmente der Gilgit-Handschrift*. StII Monographie 2. Reinbek: Dr. Inge Wezler Verlag.

<Keywords: *Sumāgadhā-avadāna*, Gilgit manuscripts, Yutaka Iwamoto, Uwe Groth, Ch. Tripāṭhī>

活動報告（平成27年4月以降）

「研究所運営委員会」を年に2、3回の割合で開会。
 「国際仏教学高等研究所所員会」を月1回の割合（夏期休暇中を除く）で開会。
 以下、主立った活動について記す

平成27年度

4月14日(火)~5月18日(月) パキスタン・ペシャワール大学 ナシム・ハン博士 (Prof. Nasim Khan, University of Peshawar, Pakistan) 招聘研究員として滞在。研究員とパキスタン出土ガンダーラ語仏教写本を共同研究

4月23日(木)：第71回 仏教学懇話会
 講師：李柱亨博士 (韓国・国立ソウル大学教授)
 テーマ：「図像学は重要か？：密教以前の仏教美術の仏像を読み解く」
 (Iconography Matters?: Reading Buddha Images in Pre-Esoteric Buddhist Art)

5月 研究所出版物発送
 ・『創価大学・国際仏教学高等研究所・年報』平成26年度(第18号) [3月31日付発刊]
 ・ Seishi Karashima and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya (ed.), *Buddhist Manuscripts from Central Asia: The St. Petersburg Sanskrit Fragments* (StPSF), volume I, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University, x + 545 p., 123 plates, ISBN 978-4-904234-11-2.
 ・ Seishi Karashima, Jundo Nagashima and Klaus Wille (ed.), *Buddhist Manuscripts from Central Asia: The British Library Sanskrit Fragments* (BLSF), volume III.1, 1–586 p., 18 plates, ISBN 978-4-904234-09-9; III.2, 587–870 p., 15 plates, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University, ISBN 978-4-904234-10-5.

5月14日(木)：第72回 仏教学懇話会
 講師：ナシム・ハン博士 (ペシャワール大学教授)
 テーマ：「アシズ・デリ (ガンダーラ) 仏教遺跡の発掘と地域歴史研究への影響」
 (Excavation at the Buddhist Site of Aziuz Dheri (Gandhāra) and its Impact on the History of the Region)

6月13日(土) 辛嶋教授
 中央アジア科研 (代表：宮治昭「中央アジア仏教美術の研究—釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に—」) 2015年度第1回全体研究会＝龍谷大学仏教文化研究所研究談話会第2回にて、「メルブ出土仏教説話集」と題して発表。

6月27日(土)~7月3日(金) 辛嶋教授 バンコク出張
 バンコクで開催された世界サンスクリット学会 (World Sanskrit Conference) 第16回大会に参加、“The *Triṣṭubh-Jagatī* verses in the *Saddharmapuṇḍarīka*” (《法華經》の *Triṣṭubh-Jagatī* 韻律) と題して発表。

7月10日(金)~14日(火) 辛嶋教授 香港に招聘出張
 7月11日(土)：香港大学・仏教研究センターに招聘され、“Who Composed the Mahāyāna Scriptures?: The Mahāsāṃghikas and Vaitulya Scriptures” (大乘經典は誰が作ったか：方等經と大衆部) と題して公開講演。
 7月12日(日)：香港大学・仏教研究センターで“On *Avalokitasvara* (觀世音) and *Avalokiteśvara* (觀自在)” (觀世音と觀自在について) と題して公開講演。
 7月13日(月)：香港教育学院・中国語言学系「語言学名家講座シリーズ」で「利用“翻版”研究 中古漢語演變——以《道行般若經》“異譯”與《九色鹿經》為例」（“翻版”を利用した中古漢語の変遷の研究——『道行般若經』の“異訳”と『九色鹿經』を例として）と題して講演。

7月16日(木)~8月23日(日) 辛嶋教授 韓国に招聘出張
 韓国東国大学・仏教研究所に招聘され、仏教の戒律文献に関して共同研究ならびに「『十誦律・二種毘尼及雜誦』及びトルクメニスタン・メルブ出土サンスクリット律写本対照研究」と題して連続講義。

- 8月3日(月)：東国大学・仏教研究所で、“관음 (觀音, *Avalokitasvara*) 과 관자재 (觀自在, *Avalokiteśvara*)” (觀音と觀自在)と題して公開講演 (講演の様子と内容はニュース番組で紹介された：<http://news.bbsi.co.kr/news/articleView.html?idxno=698667>)
- 8月6日(木)：東国大学・仏教研究所で、“대승 불전 연구의 새로운 시점: 고역 (古訳) 경전과 간다라어사본・중앙아시아 출토 범어 사본과의 비교로부터 보이는 것” (大乘仏典研究の新視点：古訳經典とガンダーラ語写本・中央アジア出土梵語写本との比較から見えてくるもの)と題して公開講演。
- 8月24日(月)~31日(月) 辛嶋教授 北京に私費出張
8月29日(土)、北京大学にて、同外国語学院東語系教授段晴博士、同副教授葉少勇博士などと懇談。
- 9月13日(日)~10月13日(火) 辛嶋教授 台湾に招聘出張
台湾科技部の短期招聘プログラムにより国立清華大学人文社会学院中国文学科に招聘され、同教授陳淑芬博士と共同研究 (仏教漢語) を行うとともに連続講演をした。
9月17日(木)：国立清華大学人文社会学院にて「《列子》與《般若經》」(『列子』と『般若經』)と題して講演。
9月18日(金)：印順法師紀念館と福嚴仏学院を訪問。
9月19日(土)：中央研究院文物館を訪問。
9月24日(木)：国立清華大学人文社会学院にて「孟蘭盆之義 一自恣日的“飯鉢”」(孟蘭盆の意味——自恣の日のご飯鉢)と題して講演。
9月25日(金)：法鼓文理学院にて「佛典語言及傳承」(仏典の言語と伝承)と題して講演。
9月30日(水)：国立政治大学哲学系にて「犍陀羅語與大乘佛教」(ガンダーラ語と大乘仏教)と題して講演。
10月1日(木)：国立清華大学人文社会学院にて「何為判斷疑偽經之根據——以《舍利弗問經》為例」(疑偽經と判斷する根拠は何か——『舍利弗問經』を例として)と題して講演。
10月3日(土)~4日(日)：佛光大学で開催された第二回『維摩經與東亞文化』国際シンポジウムに招聘され、「誰創造了大乘經典——大眾部與方等經典」(大乘經典は誰が作ったか：大眾部と方等經)と題して主題講演を行った (http://website.fgu.edu.tw/zh_cn/announcement/fgu/佛大第二屆維摩經與東亞文化研討會-匯聚佛教學術國際化能量-4752425)。『人間福報』がインタビュー記事を配信 (<http://www.merit-times.com.tw/NewsPage.aspx?unid=420561>; <http://www.merit-times.com.tw/epaper.aspx?Unid=%20420561>)
10月5日(月)：佛光大学・仏学院で「觀世音與觀自在」(觀世音と觀自在)と題して講演。 (http://website.fgu.edu.tw/zh_tw/announcement/fgu/辛嶋教授暢談-觀世音與觀自在-85056008)
10月7日(水)：国立政治大学哲学系にて「《般若經》是在犍陀羅以犍陀羅語產生的嗎？」(『般若經』は、ガンダーラ地方でガンダーラ語で作られたか)と題して講演。
10月8日(木)：国立清華大学人文社会学院にて「利用“翻版”研究中古漢語演變——以《九色鹿經》為例」(“翻版”を利用した中古漢語の変遷の研究——『九色鹿經』を例として)と題して講演。
- 10月25日(日)~26日(月) 辛嶋教授
台湾・法鼓佛教学院が主催する「『中阿含經』國際學術研討會」に招待されたが出席せず、“Underlying Language of the Chinese Translation of the *Madhyama-Āgama*” (漢訳『中阿含經』の原語)と題して論文発表。
- 10月30日(金) 浙江大学中国文学系主任・汪維輝教授、四川大学文学与新聞学院副院長・雷漢卿教授、大東文化大学・丁鋒教授などが来訪。研究員と懇談。
- 10月17日(土)~10月22日(木) 北海道武蔵女子短期大学准教授・鈴木健太博士が招聘研究員として滞在。研究員とギルギット出土『般若經』梵語写本を共同研究。
- 11月10日(火)~18日(水) 辛嶋教授 ロシア出張
サンクトペテルブルク・ロシア科学アカデミー東洋写本研究所に写本調査と共同研究のために出張。
11月16日(月)：サンクトペテルブルク・ロシア科学アカデミー東洋写本研究所にて“On *Avalokitasvara* (觀世音) and *Avalokiteśvara* (觀自在)” (觀世音と觀自在について)と題して講演。

11月15日(日)~12月1日(火) 韓国・金剛大学校仏教文化研究所教授・李榮振博士が招聘研究員として滞在。研究員とギルギット出土『般若経』梵語写本を共同研究。

12月24日(木) 辛嶋教授 科研(基盤(B)) 「中央アジア仏教美術の研究—釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に—」(代表:宮治昭) 2015年度第3回全体研究会参加。

平成28年

1月11日(月)~18日(月) 辛嶋教授 ドイツに招聘出張

1月13日(水): ベルリン自由大学・孔子学院に招待され、“Buddhismus als kulturelle Brücke zwischen Indien und China und die Forschungen von Walter Liebenthal”(インドと中国の文化的橋としての仏教とヴァルター・リーベンタールの業績)と題して公開講演。

1月15日(金): ハンブルク大学・アジアアフリカ学院にて“Who Composed the Mahāyāna Scriptures?: The Mahāsāṃghikas and Vaitulya Scriptures”(大乘経典は誰が作ったか: 方等経と大衆部)と題して講演。

1月15日(金)~3月1日(火) 北京大学副教授・葉少勇博士が招聘研究員として滞在。研究員とハーバード大学所蔵中央アジア出土梵語写本断簡を共同研究。

国際仏教学高等研究所・所員の著作
(List of Publications of the IRIAB Fellows)

辛嶋静志 (Seishi KARASHIMA)

- Buddhist Manuscripts from Central Asia: The British Library Sanskrit Fragments (BLSF)*, vol. III, 2 parts, ed. Seishi Karashima, Jundo Nagashima and Klaus Wille, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University.
- Buddhist Manuscripts from Central Asia: The St. Petersburg Sanskrit Fragments (StPSF)*, vol. I, ed. Seishi Karashima and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University.
- “누가 대승 (*mahāyāna*) 경전을 창작하였는가? —대중부 (大衆部) 그리고 방등 (方等. *vaitulya*) 경전 —” 『佛敎學 Review』 (韓国、金剛大學校、佛敎文化研究所) 第16號, (2014, 12), pp. 9~96. (translated by 정주희) [Who Composed the Mahāyāna Scriptures?— The Mahāsāṃghikas and Vaitulya Scriptures].
- “Nowe badania nad buddyjskimi sanskryckimi manuskryptami pochodzącymi z Azji Środkowej”, in: *Studia Indologiczne* (Warsaw, Poland), vol. 21 (2014), pp. 25~36. (translated by Marek Mejor)
- 「阿彌陀淨土の原貌」 《內陸歐亞歷史語言論集——徐文堪先生古稀紀念》 許全勝、劉震編、蘭州 2014: 蘭州大學出版社 (歐亞歷史文化文庫), pp. 211~248. (裘雲青譯) [The Original Landscape of Amitābha's “Pure Land”].
- 「列子與般若經」 『漢語史學報』 第十四輯 (2014), pp. 5~14 (裘雲青との共著) [*Liezi* and the *Prajñāpāramitā*].
- 「法藏部『長阿含經・十上經』に見える説一切有部の“侵食”」, 国際仏教学大学院大学 日本古写經研究所文科省戦略プロジェクト実行委員会編 『国際シンポジウム報告書2014: 東アジア仏敎写本研究』, pp. 157~172. [The Sarvāstivādins' "Encroachment" into the Chinese Translation of the *Daśottara-sūtra* in the *Dīrgha-āgama* of the Dharmaguptakas].
- “Who Composed the Mahāyāna Scriptures?— The Mahāsāṃghikas and Vaitulya Scriptures”, in: *ARIRIAB (Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University)*, vol. 18 (2015): 113~162.
- “Vehicle (*yāna*) and Wisdom (*jñāna*) in the Lotus Sutra — the Origin of the Notion of *yāna* in Mahāyāna Buddhism”, *ibid.* 163~196.
- “The *Avadāna* Anthology from Merv, Turkmenistan”, in: *Buddhist Manuscripts from Central Asia: The St. Petersburg Sanskrit Fragments (StPSF)*, ed. Seishi Karashima and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya, pp. 145~505 (together with M. I. Vorobyova-Desyatovskaya).
- 「漢譯佛典語言研究的意義及方法」 《國際漢學研究通訊》 10 (2015, 4), 北京: 北京大學國際漢學家研修基地編: 北京大學出版社, pp. 322~342 [Meaning and Method of Linguistic Research on Chinese Translations of Buddhist Scriptures].
- 「試探《維摩詰經》的原語面貌」, 《佛光學報》 新一卷・第二期 (2015, 7) [*Foguang Journal*, vol. 1, no. 1], pp. 73~100 [An Investigation into the Original Language of the *Vimalakīrtinirdeśa*].

工藤順之 (Noriyuki KUDO)

- “Gilgit *Saddharmapuṇḍarīkasūtra* Manuscript in the British Library, Or.11878B-G,” in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol. 18 (2015): 197~213 [14 figures].
- “Newly Identified Manuscripts in the *Gilgit Buddhist Manuscripts: Avadānas and Dhāraṇīs*,” *ibid.* 253~262.

- “The Sanskrit Fragments Or.15009 in the Hoernle Collection: Or.15009/351–400,” in: *Buddhist Manuscripts from Central Asia: The British Library Sanskrit Fragments*, vol. III.1, eds., S. Karashima, J. Nagashima and K. Wille, Tokyo: The International Research Institute for Advanced Buddhology, 2015, pp. 233–272.
- “The Sanskrit Fragments Or.15009 in the Hoernle Collection: Or.15009/451–500,” in: *BLSF*, vol. III.1, 2015, pp. 315–346.
- “The Sanskrit Fragments Or.15009 in the Hoernle Collection: Or.15009/601–678,” in: *BLSF*, vol. III.1, 2015, pp. 419–474 [with Masanori Shōno].

**受贈受入書籍類 [Books & CD-ROMs Received]
(2015.2~2016.1)**

* We should like to express our gratitude to those who have kindly sent us their publications. The following list of books and CD-ROMs, exclusively in the fields of Indology and Buddhology, is certainly by no means complete.

- DHAMMAJOTI, K. L. (ed.), *Buddhist Meditative Praxis: Traditional Teachings and Modern Application*, (HKU: CBS Publication Series), 2015, Hong Kong: Centre of Buddhist Studies, The University of Hong Kong.
- DRAGONETTI, Carmen and Fernando TOLA (tr. & intro.), *Dhammapada: La Esencia de la Sabiduría Budista. Traducción Directa del Pali con Introducción y Notas por Carmen Dragonetti y Fernando Tola*, 2004, New Jersey: Primordia Media.
- HARIMOTO, Kengo, *God, Reason and Yoga: A Critical Edition and Translation of the Commentary Ascribed to Śaṅkara on Pātañjalayogaśāstra 1.23-28*, (Indian and Tibetan Studies 1), 2014, Hamburg: Department of Indian and Tibetan Studies, Universität Hamburg.
- ISAACSON, Harunaga (ed.) and Francesco SFERRA (ed.), *The Sekanirdeśa of Maitreya-nātha (Advayavajra) with the Sekanirdeśapañjikā of Rāmapāla: Critical Edition of the Sanskrit and Tibetan Texts with English Translation and Reproductions of the MSS*, (Serie Orientale Roma, Vol. CVII ; Manuscripta Buddhica, 2), 2014, Napoli: Università Degli Studi di Napoli "L'Orientale".
- KASAMATSU, Sunao, *Jinālaṅkāra: Pada Index and Word Index*, (Philosophica Asiatica ; Monograph Series, 2), 2015, Tokyo: Chuo Academic Research Institute.
- KARUNADASA, Y., *The Buddhist Analysis of Matter*, 2015, Hong Kong: Centre of Buddhist Studies, The University of Hong Kong.
- KRAGH, Ulrich, *Tibetan Yoga and Mysticism: A Textual Study of the Yogas of Naropa and Mahāmudrā Meditation In the Medieval Tradition of Dags po*, (Studia Philologica Buddhica Monograph Series, 32), 2015, Tokyo: International Institute for Buddhist Studies.
- LIU, Zhen, *The Dharmadhātustava: A Critical Edition of the Sanskrit Text with the Tibetan and Chinese Translations, a Diplomatic Transliteration of the Manuscript and Notes*, 2015, (Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, No. 17), Beijing, Vienna: China Tibetology Publishing House, Austrian Academy of Sciences Press.
- LUO, Hong and Harunaga ISAACSON, *Abhayākara-gupta's Abhayapaddhati, chapters 9 to 14*, (Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, No. 14), 2010, Beijing, Hamburg: China Tibetology Publishing House, Centre for Tantric Studies (AAI).
- LUO, Hong and Harunaga ISAACSON, *The Buddhakapālatantra, Chapters 9 to 14*, 2010, (Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, No. 11), Beijing, Hamburg: China Tibetology Publishing House, Centre for Tantric Studies (AAI).
- MAURER, Petra and Johannes SCHNEIDER (bearb.), *Wörterbuch der Tibetischen Schriftsprache / Im Auftrag der Kommission für Zentral- und Ostasiatische Studien der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. 23. Lieferung: gñā' ltag - bsñol*, 2014, München: Verlag der Bayerischen Akademie der Wissenschaften.
- MAURER, Petra and Johannes SCHNEIDER (bearb.), *Wörterbuch der Tibetischen Schriftsprache / Im Auftrag der Kommission für Zentral- und Ostasiatische Studien der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. 24. Lieferung: Ergänzende Hinweise Literatur- und Abkürzungsverzeichnisse*, 2014, München: Verlag der Bayerischen Akademie der Wissenschaften.
- MAURER, Petra and Johannes SCHNEIDER (bearb.), *Wörterbuch der Tibetischen Schriftsprache / Im Auftrag der Kommission für Zentral- und Ostasiatische Studien der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. 25. Lieferung: Lieferung: ta-btañ*, 2014, München: Verlag der Bayerischen Akademie der Wissenschaften.
- MAURER, Petra and Johannes SCHNEIDER (bearb.), *Wörterbuch der Tibetischen Schriftsprache / Im Auftrag der Kommission für Zentral- und Ostasiatische Studien der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. 26. Lieferung: btañ gcod-lto ston*, 2014, München: Verlag der Bayerischen Akademie der Wissenschaften.
- PASADIKA, Bhikkhu (ed. & tr.), *The Kāśyapa-parivarta*, 2015, New Delhi: Aditya Prakashan.
- SHENG-YEN, Chan Master, *Chan and Enlightenment*, 2014, Taipei: Dharma Drum Publishing.
- SIMS-WILLIAMS, Nicholas, *Bactrian Documents from Northern Afghanistan I: Legal and Economic Documents (Revised Edition)*, (Corpus Inscriptionum Iranicarum, pt. 2 . Inscriptions of the Selucid and Parthian periods and of Eastern Iran and Central Asia v. 6; Bactrian Studies in the Khalili Collection, v. 3), 2012, London: Nour Foundation in association

- with Azimuth Editions.
- STASIK, Danuta (ed.) and Anna TRYNKOWSKA (ed.), *Teaching on India in Central and Eastern Europe: Contributions to the 1st Central & Eastern European Indological Conference on Regional Cooperation (Warsaw, 15-17 September 2005)*, 2007, Warsaw: Dom Wydawniczy Elipsa.
- Universität Wien, *Institut für Südasiens-, Tibet- und Buddhismuskunde: Philologisch-Kulturwissenschaftliche Fakultät. Jahresbericht 2012/2013*, 2013, Wien: Universität Wien.
- 青原令知編『俱舍: 絶ゆることなき法の流れ』(龍谷大学仏教学叢書, 4) 2015, 京都: 自照社出版.
- 赤尾栄慶編集『南都と南山城をめぐる僧と造仏』(仏教美術研究上野記念財団研究報告書, 第41冊) 2015, 仏教美術上野記念財団.
- 池麗梅著『石山寺一切経本『續高僧傳』卷八: 翻刻と書誌學的研究』(鶴見大學佛教文化研究所モノグラフシリーズ, I) 2014, 鶴見大學佛教文化研究所.
- 金沢大学文化人類学研究室編『珠洲市宝立町鶴島』(金沢大学フィールド文化学 12; 金沢大学文化人類学研究室調査実習報告書, 第30巻) 2015, 金沢大学文化人類学研究室.
- 许全胜 等編『内陆欧亚历史语言论集』(欧亚历史文化文库) 2015, 兰州: 兰州大学出版社.
- 國際佛教學大學院大學日本古寫經研究所文科省戰略プロジェクト実行委員會編『東アジア仏教写本研究』(國際シンポジウム報告書2014) 2015, 國際佛教學大學院大學日本古寫經研究所文科省戰略プロジェクト実行委員會.
- 國際佛教學大學院大學日本古寫經研究所文科省戰略プロジェクト実行委員會編『高僧傳卷五; 續高僧傳卷二八・卷二九・卷三〇』(日本古寫經善本叢刊, 第九輯) 2015, 國際佛教學大學院大學日本古寫經研究所文科省戰略プロジェクト実行委員會.
- 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター編『バーミヤーン遺跡保存事業概報: 2013年度(第11次ミッション)』(アフガニスタン文化遺産調査資料集, 概報第7巻) 2015, 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター.
- 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター編『バーミヤーン谷中心部の文化的景観: 1970年代(DVD版)』(アフガニスタン文化遺産調査資料集, 別冊第4巻; バーミヤーン遺跡資料集, 1) 2015, 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター.
- 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター編『バーミヤーン谷中心部の地形測量(DVD版)』(アフガニスタン文化遺産調査資料集, 別冊第5巻; バーミヤーン遺跡資料集, 2) 2015, 国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター.
- 智山伝法院編『胎蔵界念誦次第における真言の解説』(智山伝法院選書, 第17号; 智山の真言 3) 2015, 智山伝法院.
- 中国藏学研究中心西藏文化博物馆編『雪域宝鉴』(西藏文化博物馆展品集萃) 2010, 北京: 中国藏学出版社.
- 東北学院大学アジア地域文化研究所編『日中韓周縁域の宗教文化 I』2015, 東北学院大学アジア地域文化研究所.
- 日本寺古文書学習会編『満山制法大帖・聚塵1』(中村檀林資料, 3) 2011, 千葉: 正東山日本寺.
- 佛教大学総合研究所編『大学と地域の協働による共生(ともいき)のまちづくり』2015, 佛教大学総合研究所.
- 森章司、金子芳夫著『原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究 20』(「中央学術研究所紀要」モノグラフ篇 No.20; 基礎研究篇, IX) 2015, 中央学術研究所.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度 Directory of Buddhist Monasteries in Bangladesh: A Provisional Edition』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度 研究報告書』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度 幸福を求めて: ダルマと現代インド仏教徒』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度 全体研究会プロシーディングス』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度第1回国際シンポジウムプロシーディングス: 日本仏教のゆくえ: その可能性』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度第1回国内シンポジウムプロシーディングス: 近代日本仏教と親鸞』2015, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.
- 龍谷大学アジア仏教文化研究センター『2014年度第2回国内シンポジウムプロシーディングス: アジア仏教の現在 VI: 仏教と死者のゆくえ: 近現代の日本からの展望』2014, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター.

受贈受入雑誌 [Journals Received]
(2015.2～2016.1)

Acta Asiatica: Bulletin of the Institute Eastern Culture 108-9	Toho Gakkai
Annali Di Ca' Foscari 50	Universita Ca' Foscari Venezia
Asian Research Trends: New Series 3, 4, 7, 8	東洋文庫
Buddhist Asia News Letter 2	龍谷大学アジア仏教文化研究センター
Bulletin d'Études indiennes 31, 32	Association Francaise pour les Études Sanskrites
Bulletin of the Nanzan Institute for Religion & Culture 39	Nanzan Institute for Religion and Culture
IDP News = Newsletter of the International Dunhuang Project	The British Library
IDP: The Silk Road Online 45, 46	
Japanese Religions 日本の諸宗教 39/1-2	NCC宗教研究所
Journal of Buddhist Studies 7	香港大学佛学研究中心
Journal of the Nepal Research Centre 14	Universität Hamburg, Asien-Afrika-Institut, Abteilung für Kultur und Geschichte Indiens und Tibets
List of Publications Received 17	国際仏教学大学院大学附属図書館
Mahāpiṭaka. Newsletter 21	仏教伝道協会
Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko (The Oriental Library) 64, 67, 68, 69, 70, 71	東洋文庫
MINPAKU Anthropology Newsletter 40, 41	国立民族学博物館
Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Saṃbhāṣā 32	名古屋大学文学部インド文化学研究室
NCC宗教研究所ニュース 42	NCC宗教研究所
The Indian International Journal of Buddhist Studies 16	The Indian International Journal of Buddhist Studies
The Journal of Oriental Studies 25	The Institute of Oriental Philosophy
Tobunken News 56, 57, 58	国立文化財機構 東京文化財研究所
Toyo University International Research Center for Philosophy Newsletter 9	東洋大学国際哲学研究センター
Zinbun 45	京都大学人文科学研究所
불교학리뷰 = Critical review for Buddhist studies 16, 17	金剛大学校仏教文化研究所
愛知学院大学文学部紀要 44	愛知学院大学文学会
アップ・トゥー・デート37	淑徳大学長谷川仏教文化研究所
いとくら:学術フロンティア「奈良平安古写経研究拠点の形成」	国際仏教学大学院大学
ニュースレター 10	
インド哲学仏教学研究 22. 23	東京大学大学院人文社会系研究科インド哲学仏教学研究室
叡山学院研究紀要 37	叡山学院
大崎学報 171	立正大学仏教学会
大谷学報 94/1-2, 95/1	大谷大学図書館
大谷大学研究年報 67	大谷大学図書館
大谷大学真宗総合研究所研究紀要 32	大谷大学真宗総合研究所
大谷大学真宗総合研究所研究所報 66	大谷大学真宗総合研究所
大谷大学大学院研究紀要 31	大谷大学大学院
金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇 7	金沢大学歴史言語文化学系
金沢大学歴史言語文化学系論集 史学・考古学篇 7	金沢大学歴史言語文化学系
韓國宗教 38	The Research Centre of Religions, Wonkwang University
漢語史学報 14	浙江大学漢語史研究中心
汲古 67, 68	汲古書院
杏雨 KYO-U 18	武田科学振興財団
教化研究 157	真宗大谷派教学研究研究所
キリスト教文化研究所紀要 33	上智大学キリスト教文化研究所

- 現代密教 26
 高野山大学密教文化研究所紀要 28
 高野山大学論叢 50
 国際哲学研究 4, 別冊6
 国際仏教学大学院大学研究紀要 19
 国立民族学博物館研究報告 39/3-4, 40/1-2
 三康文化研究所所報 50
 三康文化研究所年報 46
 四天王寺大学紀要 59, 60
 浄土宗學研究 41
 新國學 11
 大正大學研究紀要 人間學部・文學部 100
 大正大学綜合佛教研究所年報 37
 臺大佛學研究 28, 29
 中華佛學學報 28
 中國俗文化研究 9
 中國典籍日本古寫本の研究ニューズレター 2
 哲学・思想論集 40
 天台學報 56
 東京文化財研究所概要 2015
 東大寺総合文化センター年報 4
 東方 30
 東方學 129, 130
 東方學報 90
 東方學會報 108, 109
 同朋大学大学院文学研究科研究紀要：閼蔵 10
 同朋大学佛教文化研究所紀要 34
 同朋大学佛教文化研究所所報 28
 同朋大学論叢 99
 同朋佛教 50
 東洋學術研究 54/1, 2
 東洋學報：東洋文庫和文紀要 89/3, 91/3, 92/2, 92/4, 93/4, 94/1, 94/3, 94/4, 95/1, 95/2, 95/4, 96/1, 96/2, 96/3
 東洋思想文化 2
 東洋大学国際哲学研究センターニューズレター 9
 東洋哲学研究所紀要 31
 東洋の思想と宗教 32
 東洋文化研究所紀要 166, 167
 東洋文庫書報 41-43, 45
 東洋文庫年報 2011年度, 2012年度, 2013年度
 敦煌寫本研究年報 9
 成田山仏教研究所紀要 38
 南山宗教文化研究所研究所報 25
 二松学舎大学大学院紀要・二松 29
 二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊 45
 二松學舎大學論集 58
 日蓮仏教研究 1-7
 日本西藏學會々報 61
 長谷川仏教文化研究所年報 39
 花園大学国際禅学研究所論叢 10
 東アジア仏教学術論集 3
 東アジア仏教研究 13
 智山伝法院
 高野山大学密教文化研究所
 高野山大学図書館
 東洋大学国際哲学研究センター
 国際仏教学大学院大学
 国立民族学博物館
 三康文化研究所
 三康文化研究所
 四天王寺大学図書館
 知恩院浄土宗學研究所
 四川大學中國俗文化研究所
 大正大学
 大正大学綜合佛教研究所
 國立臺灣大學文學院佛學研究中心
 中華佛學研究所
 四川大學中国俗文化研究所
 京都大學人文科學研究所
 筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻
 叡山学院
 国立文化財機構 東京文化財研究所
 東大寺総合文化センター
 中村元東方研究所
 東方学会
 京都大学人文科学研究所
 東方学会
 同朋大学大学院文学研究科
 同朋大学佛教文化研究所
 同朋大学佛教文化研究所
 同朋大学社会福祉学部研究室
 同朋大学仏教学会
 東洋哲学研究所
 東洋文庫
 東洋大学文学部
 東洋大学国際哲学研究センター
 東洋哲学研究所
 早稲田大學東洋哲學會
 東京大学東洋文化研究所
 東洋文庫
 東洋文庫
 京都大學人文科學研究所
 成田山仏教研究所
 南山宗教文化研究所
 二松学舎大学附属図書館
 二松学舎大学附属図書館
 二松学舎大学附属図書館
 常円寺日蓮仏教研究所
 日本西藏学会事務局
 淑徳大学長谷川仏教文化研究所
 花園大学国際禅学研究所
 東洋大学東洋学研究所
 東アジア仏教研究会

佛教學研究 71	龍谷仏教学会
佛教大学総合研究所紀要 22	佛教大学総合研究所
佛教大学総合研究所所報 36	佛教大学総合研究所
佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇 43	佛教大学大学院
佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇 43	佛教大学大学院
佛教大学大学院紀要 社会福祉学研究科篇 43	佛教大学大学院
佛教大学大学院紀要 文学研究科篇 43	佛教大学大学院
佛教大学仏教学会紀要 20	佛教大学仏教学会
佛教大学仏教学部論集 99	佛教大学仏教学部
佛教大学文学部論集 99	佛教大学文学部
佛教大学法然仏教学研究センター紀要 1	佛教大学法然仏教学研究センター
佛教大学歴史学部論集 5	佛教大学歴史学部
佛教圖書館館刊 59	伽耶山基金會圖書資訊中心
佛教文化研究 59	浄土宗教学院
佛教論叢 59	浄土宗教学院
佛光学報 新一巻・第二期 上下冊	佛光大學佛教研究中心
法鼓佛學學報 16	法鼓文理學院
法華文化研究 40	立正大学法華經文化研究所
待兼山論叢 48	大阪大学大学院文学研究科
南アジア古典学 10	九州大学インド哲学史研究室
身延山大学仏教学部紀要 15	身延山大学仏教学部
身延論叢 20	身延山大学仏教学会
民博通信 147-151	国立民族学博物館
武蔵野大学仏教文化研究所紀要 31	武蔵野大学仏教文化研究所
論叢 アジアの文化と思想 23	早稲田大学文学学術院東洋哲学研究室内 アジアの文化と思想の会

執筆者紹介 [Contributors to this Issue]

Oskar von HINÜBER	Professor Emeritus, University of Freiburg, GERMANY
Padmanabh S. JAINI	Professor Emeritus, University of California, Berkeley, USA
M. Nasim KHAN	Professor, Peshawar University, PAKISTAN
Petra KIEFFER-PÜLZ	Research Fellow, Academy of Sciences and Literature, Mainz, GERMANY
Isao KURITA (栗田 功)	Eurasian Art, Tokyo
Li Xuezhu (李 学竹)	Research Associate, China Tibetology Research Center, CHINA
LIANG Xushu (梁 旭澍)	Assistant Researcher, Dunhuang Academy, CHINA
Katarzyna MARCINIAK	Postdoctorate Researcher, Research Centre of Buddhist Studies Warsaw University, POLAND
PENG Jinzhang (彭 金章)	Researcher (Professor), Dunhuang Academy, CHINA
SAERJI (薩爾吉)	Associate Professor, Peking University, CHINA
Peter SKILLING	Maître de conférences, École française d'Extrême-Orient, Bangkok and Paris, THAILAND
Tatsushi TAMAI (玉井 達士)	Visiting Researcher, IRIAB, Soka University, Tokyo, JAPAN
Chih-mien Adrian TSENG (曾 稚棉)	Assistant Professor, Department of Buddhist Studies, Fo Guang University, Taiwan
YE Shaoyong (葉 少勇)	Associate Professor, Peking University, CHINA
Seishi KARASHIMA (辛嶋 静志)	Director/Professor, IRIAB, Soka University, Tokyo
Noriyuki KUDO (工藤 順之)	Professor, IRIAB, Soka University, Tokyo

編集後記 (Editorial Postscript)

本誌第19号をお届けします。今号は英文17篇、和文1篇を掲載することが出来ました。

紙面の都合上、それぞれのご論攷についてその内容を紹介することは割愛させて頂きますが、ご多忙の中、執筆頂いた諸先生方にあらためてお礼申し上げます。

研究所出版物について 今年度は写真版を二冊出版いたします。

一昨年度、『インド国立公文書館所蔵ギルギット写本・写真版』第1巻 (Vol. I: Vinaya Texts, ed. by Shayne Clarke, 2014) を出版いたしました。今年度は、その第2巻「大乘経典」として、*Prajñāpāramitā* Texts (part 1) を発刊致します：*Gilgit Manuscripts in the National Archives of India: Facsimile Edition*, Vol. II.1 Mahāyāna Texts: *Prajñāpāramitā* Texts (1), eds. by S. Karashima, Youngjin Lee, J. Nagashima, F. Shoji, K. Suzuki, Ye Shaoyong and S. Zacchetti, 2016。旧写真版では Śata Pīṭaka Series, vol. 10, part 3–5 (1966, 1970) に整理番号 24, 25, 28 の写本だけが出版され、その後の改訂拡大版 (1995) の vol. III に同番号 26, 27 の写本が新たに加えられて出版されました。今回はそのうち、Nos. 24, 25, 28 の写本と No. 10 に含まれる『金剛般若経』写本を出版いたします。

もう一点の写真版は平山郁夫シルクロード美術館所蔵のサンスクリット語、ガンダーラ語、バクトリア語写本の写真版です：*Sanskrit, Gandhārī and Bactrian Manuscripts in the Hirayama Collection*, ed. by Tatsushi Tamai, 2016。詳細については同書に譲りますが、本出版は平山郁夫先生ご夫妻と永く親交のあった玉井達士博士が平山先生の奥さまからのご依頼を受けて編集を行い、本研究所から発刊することとなりました。

新年度(2016年度)より、出版物の入手方について変更を行います。研究所ウェブサイトの出版物のページから申込書をダウンロードしていただき、必要事項を記入の上、本研究所までご返送下さい。国外からの申込の場合のみ、郵送費をウェブ上で決済していただくこととなりますが、詳しくはお申し込みしてからお知らせ致します。いずれも残部僅少の場合には発送できないこともあります。どうぞ予めご了承くださいませようお願いいたします。

研究所より 研究所の日々の活動は、事務全般担当の森富士子学事部副部長、林久子さん（12月末退職）と松井博子さん、学事部・浦上輝子さん、蔵書管理の及川弘美さん、佐々木一憲さん、高柳さつきさん、そして多くの留学生・学生諸氏の献身的な協力に支えられています。また研究所運営委員会委員長・寺西宏友副学長をはじめ、大学理事会、学事部・飛田部長、そして多くの関係部署、学外の各機関からの様々な支援の下、研究所は運営されています。我々の研究と活動を支えて下さる多くの方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。これからも、いま以上の成果を挙げられるように精進して参りたいと存じます。

(29, 2, 2016/ N.K.)

『創価大学・国際仏教学高等研究所・年報』（平成27年度）第19号

2016年3月31日発行

編集主幹 工藤順之
発行所 創価大学・国際仏教学高等研究所 (所長・辛嶋静志)
〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236
Tel: 042-691-2695, Fax: 042-691-4814
E-mail: iriab@soka.ac.jp; URL: <http://iriab.soka.ac.jp/>
印刷所 明和印刷株式会社
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-2 水上ビル
Tel: 03-3817-0581, Fax: 03-5684-7155

*Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology
at Soka University for the Academic Year 2015, Vol. XIX (2016)*

Editor-in-Chief: Noriyuki KUDO
Published on 31 March 2016
by The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University:
1-236 Tangi, Hachioji, Tokyo 192-8577, JAPAN
Phone: +81-42-691-2695 / Fax: +81-42-691-4814
E-mail: iriab@soka.ac.jp; URL: <http://iriab.soka.ac.jp/>

Printed by Meiwa Printing Co.Ltd., Tokyo, JAPAN

ISSN 1343-8980

Correspondence regarding all editorial matters and acknowledgements of monographs and the Annual Report, including manuscripts to be offered for publication, may be addressed to the Editor-in-Chief of this issue, in care of the International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University.

略号提案：

(創大)仏高研年報 = 創価大学・国際仏教学高等研究所・年報

Suggested Abbreviation:

ARIRIAB = Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology

New Publication / 新刊案内

**GILGIT MANUSCRIPTS
IN THE NATIONAL ARCHIVES OF INDIA
(= GMNAI)**

General Editors:

Oskar von HINÜBER / Seishi KARASHIMA / Noriyuki KUDO

Volume II.1

**Mahāyāna Texts:
Prajñāpāramitā Texts (1)**

Edited by

**Seishi KARASHIMA, Youngjin LEE,
Jundo NAGASHIMA, Fumio SHOJI,
Kenta SUZUKI, YE Shaoyong
and Stefano ZACCHETTI**

Published by

The National Archives of India (New Delhi, INDIA)
and

The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University (Tokyo, JAPAN)

ISBN 978-4-904234-13-6

-----oOo-----

*Obtainable on request
Please visit our website:
<http://iriab.soka.ac.jp/>*

New Publication / 新刊案内

**SANSKRIT, GĀNDHĀRĪ AND
BACTRIAN MANUSCRIPTS
IN THE HIRAYAMA COLLECTION
FACSIMILE EDITION**

**Edited by
Tatsushi TAMAI**

*Permission to reproduce the manuscripts and fragments was granted by
The Hirayama Ikuo Silk-Road Museum, Kamakura, JAPAN*

Published by

The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University (Tokyo, JAPAN)

ISBN 978-4-904234-12-9

-----oOo-----

*Obtainable on request
Please visit our website:
<http://iriab.soka.ac.jp/>*

PLATES

- | | |
|---|---------------------|
| 1 Padmanabh S. JAINI:
“A Note on the Buddha Image Depicted as the Ninth Avatāra of Viṣṇu” | PLATES 1–2 |
| 2 Oskar von HINÜBER:
“Buddhist Texts and Buddhist Images: New Evidence from Kanaganahalli
(Karnataka/India)” | PLATES 3–6 |
| 3 Oskar von HINÜBER and Peter SKILLING:
“An inscribed Kuṣāṇa Bodhisatva from Vадnagar” | PLATES 7–8 |
| 4 M. Nasim KHAN:
“Fresco Paintings from Yakatoot (Peshawar) Gandhāra” | PLATES 9–11 |
| 5 YE Shaoyong, PENG Jinzhang and LIANG Xushu:
“Sanskrit Fragments of Abhidharma Texts Found in Dunhuang” | PLATES 12–17 |
| 6 Isao KURITA:
“Gandhāran Art (Part 4)” | PLATES 18–25 |